

最新指導法による

若い人の

篠崎バイオリン教本

Shinozaki - Vol. 1

Violin
Method

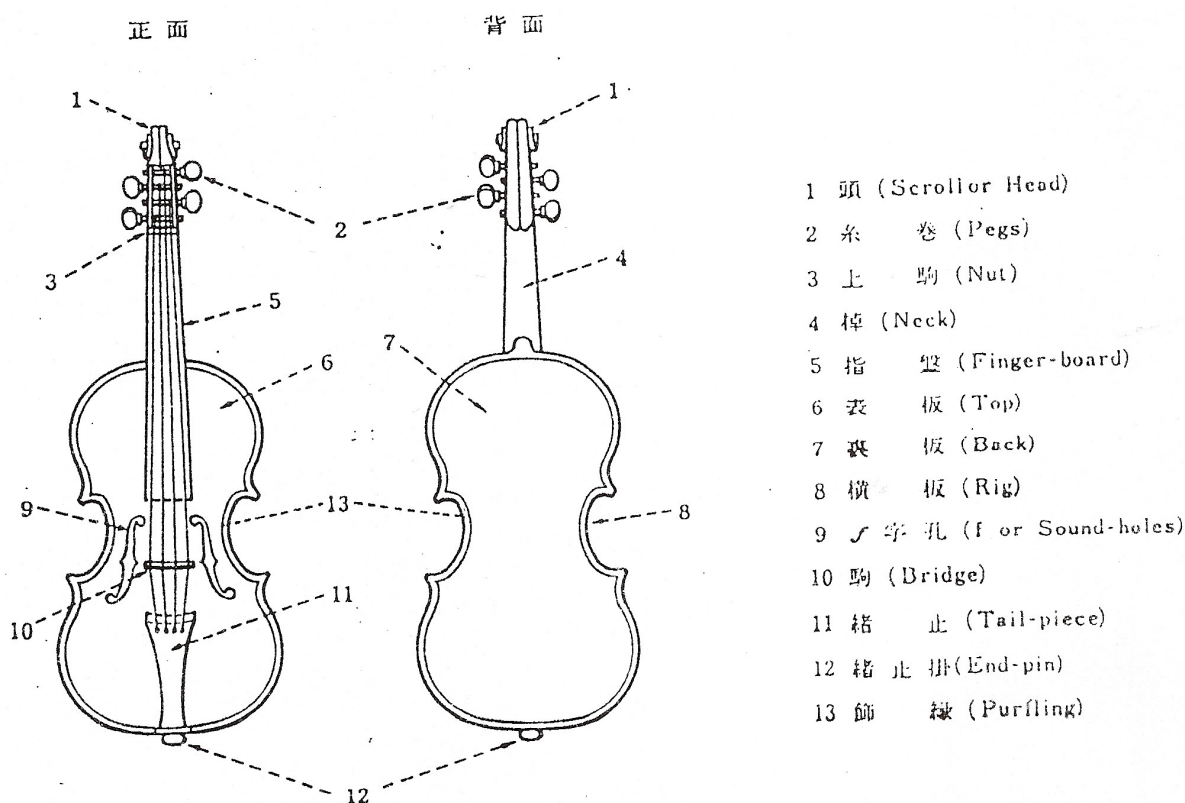
篠崎弘嗣著

1 卷

全音楽譜出版社

バイオリン各部の名称

バイオリンは弦楽器の一つであります。其の構造を大別すると、胴 (Body) と首 (Neck) に分けられます。各部分の名称は下記の通りであります。



内 部 の 構 造

楽器の内部には、駒の右足の真下よりやや後方に魂柱 (Sound-bast) という円筒型の細い柱が立っています。この魂柱は、表板に加わる弦の圧力を支えると共に、振動を表板から裏板に伝える重要な役目をする大切なもので、楽器の音はこの魂柱に依って左右される程であります。もしこの柱が倒れたりすると、音が十分出ないばかりでなく、調子がすぐ狂ったり、腹板が割れたり、又胴の尻の方から離れたりします。

又魂柱と反対側には、一番太い弦に沿って細長い力木 (Bass-bar) が膠付けにしています。これは表板を支えにすると共に音の底力を出す役目をする重要なものであります。これら内部の構造は、外部より全部見ることは不可能であります。♪字孔から覗くとその一部を見ることができます。

姿

勢

バイオリンの持ち方の良し悪しは技術の上達に最も関係するものですから、最初から正しい持ち方を学ばねばなりません。

1)真直に立って胸を張り疲れないように両足を軽く開きます。右足は心持ち後へ引いてもよいのです。これは弓を速く動かすとき左足に体の重心がかかっていると右手が楽に運動できるからです。

楽器の持ち方

- 2)バイオリンを左鎖骨の上に乗せ、片方の端を左肩の上に軽くおきます。
- 3)ネックを左足の爪先と同じ方向に向けて、
- 4)楽器を少し右側に傾けて顎であご当てを手前に引張るようにして水平に（直線）に持ちます。楽器を持つのに肩を差し上げたりして少しでも力を入れてはいけません。バイオリンの技術は非常にデリケートですから、肩に力が入ると両手とも正しい運動ができなくなってしまいます。肩の低い人はS式クッションを使用して下さい。S式クッションは体格がよくて楽器が楽に持てる人の骨格や筋肉に相当する部分を複式スポンジによって調節するもので、顎や肩に無理な力が入らず楽に持てます。
- 顎当ては各人のあごに合うものを選ばないと非常に持ちにくいものです。(註) バイオリンの持ち方は自然のままの姿勢で楽器が身体の一部として感じとられるようにまっすぐに持つことです。そうすることによって弓を弦上に直角に乗せて四本の弦が最も弾きやすくなるのです。

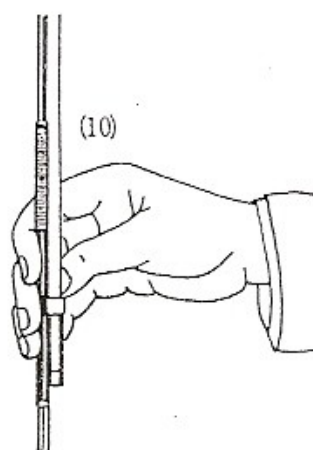
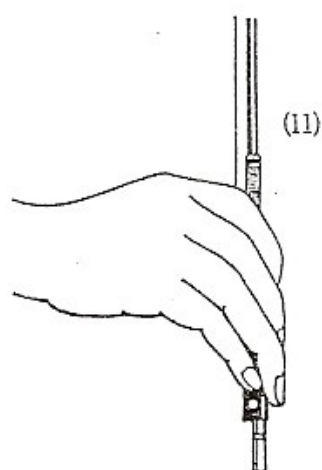
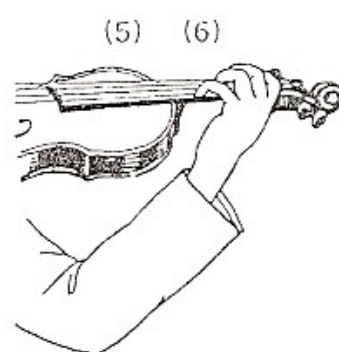
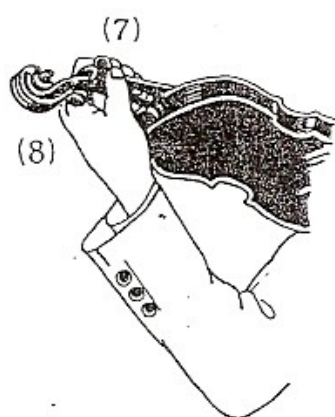
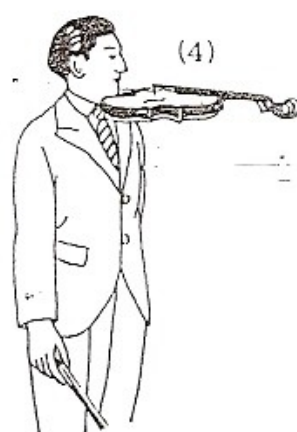
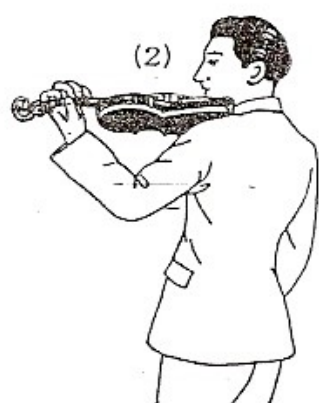
左

手

- (5)左腕は肘をバイオリンの胴の真下まで入れて指の動きを楽にするため手首は腕と直線にします。
- (6)指の付根を弦の高さ位に保って、人差指、中指、薬指、小指は自然の丸みのまゝで指先で弦を押えます。
- (7)親指は普通のみ、の楽な形で第一関節の少し上をネックに軽く当て、弦上の四本の指が同じ強さで押えられる所におきます。(そうすると親指の位置は人差指と中指の中間位の反対側になります)親指の長い人はネックの上に出ますが、短い人やG弦を押える時等は下になることがあります。
- (8)以上のようにして持つと親指と人差指との境目のくぼみはネックから離れて弓先が入る位になるはずです。弦を押える時は、指の根元の関節の運動で、指の重さだけで強く打下するようにするので、指や手の関節が堅くならないように注意せねばなりません。(弦を押える強さは軽くゆり動かしてみてもビブラートがつく位が一番よいのです)又上達してからはハッキリした音を出す時は、指を立て、押え、柔かい音の時は指をねせて押えたりします。なおすべての指は弦から離れた時も曲げたまゝの楽な形にしておくのです。
- (註) 左手はいつも四本の指が同じ強さで楽に押えられるように持つことが要点であります。

弓の持ち方

- (9)先ず右手を、少く時のように楽に下げてみます。手首から先はできるだけこのまゝの形で弓を持って自由に運動ができるようにしておくといよいのです。
- (10)親指はそのまゝの形で(少しくの字形になっているはず)指頭を弓の微動装置の端と弓身(竿)とに半々位のところに当てて弓と直角にします。
- (11)中指は指先から第一関節の所に人差指は第一と第二の関節の間に弓を斜におきます。小指は丸くしたまゝ、指頭を弓に乗せて、薬指はそれに従って自然のまゝにおきます。親指の位置は人差指と中指との中間位の反対側がよいのです。尚弓の持ち方弾き方等はその人の体格や手指の長さで幾分違うものです。最後まで読んで研究しなさい。



弓の使い方手首

美しい音を出すには弓は普通駒と指板との中間を平行（弦と直角）に動かさねばならないのですが、弓を直線に引くには、弓の上下運動に従って肩や肘の関節の運動と共に手首を少しずつ屈伸させなければなりません。そしてその手首の筋肉の屈伸運動によっても音を出すのであって、手首はいつも二つの役目をもっていることを忘れてはなりません。

(1)弓の根元は（毛の張りが強すぎて音が出にくいので）竿を少し向うに倒し手首はや・ふくらみをもち、(2)弓の中央では直線になって(3)弓先に進むに従って手首はや・沈んでゆきます。

肘と肩

(4)肩や肘はいつも楽にして肘は身体につきすぎないように、又高く上りすぎても腕の柔かい運動をさまたげることになります。弓を使う時、腕全体が同時に動くとき弓がふらついて雑音が出るので注意せねばなりません。弓の根元を使う時は肘をよく上げて肩の関節を使って上膊の運動で弾きます。

弓がだんだん下降してゆくに従って肘も下ってゆき、弓の中央では肘と手首が直線になり、中央から先は肘の関節を使って前腕の運動で弾きます。(5)バイオリンの立派な演奏は手首の動きを主にした弓の自由な操作でできるのですから、弓は指の力だけで吸いつくようにして持って、手首、肘、肩等の関節は楽にしていなければなりません。

又弓を使う右腕を合理的に運動させるため前腕を内側に回旋させて手首や肘の関節を弓の進行方向にかたむけておくのです。

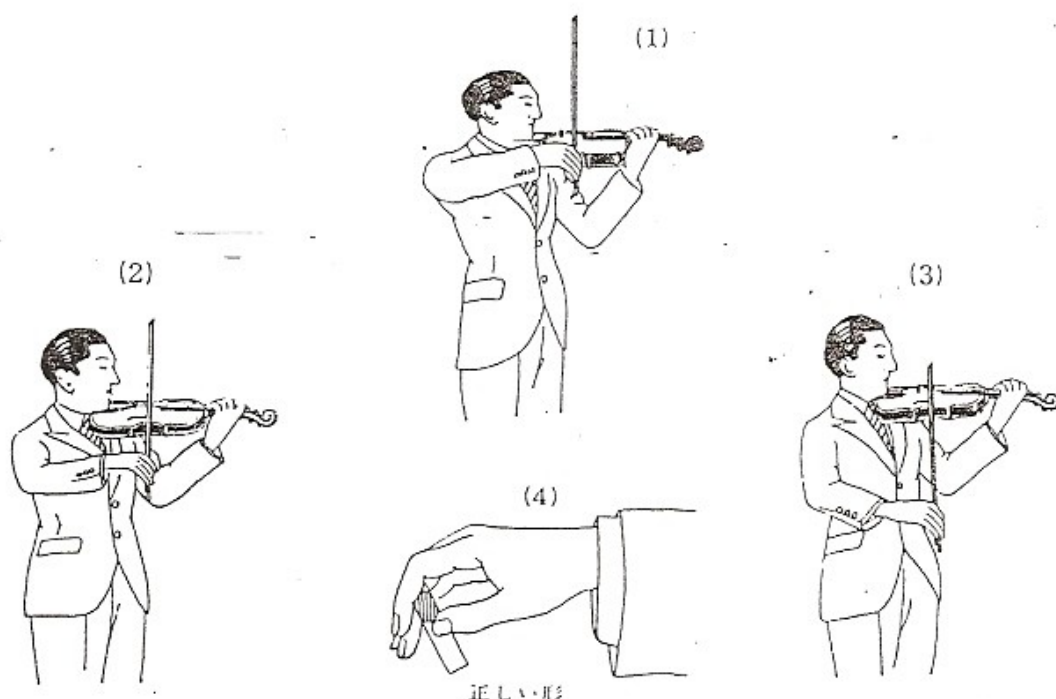
指と弓に加える圧力

美しい平均した音を出すには弓は根元から先まで同じ速さで動かさねばならないのですが、弓は根元の方が重くそれに手の重みまで加わって自然に大きな音になり、従って下行弓の場合先にくにつれて小さな音になります。ですから平均した音を出すには弓の根元では人差指をゆるめにして中指でしっかり弓を持ち、小指は丸くしたまゝ、指頭で軽く支えて弓の圧力を減らします。弓先にゆくに従って人差の圧力を加え、小指はだんだんゆるめて弓先では離れてもよいのです。なお親指は弓の根元を使う時はや・外側にふくらんでいますが、弓先にゆくに従って僅かずつ伸びてゆきます。親指も弾力があるようにして弓を持ち、上からの圧力をコントロールすることが大切です。又人差指は弓の根元を使う時はゆるめにして伸びぎみになり、弓先に進むにつれて僅かですが深目になってゆきます。デリケートな技術を要する時などは人差指を浅目にして指先で弓を握った方が器用に動くのです。技術が進むにつれて弓を引き返す時は、肩や肘の関節を柔かくして手首の運動と共に指の補助運動で行なうことが大切になります。弓の圧力は手首や指の力で加えるように感じるのでありますが、人を魅惑するような音を出すには全身の力を肩から腕や手首を伝って弓と弦の接点に集中させるのであります。ですから右手は肩から指先まで関節を楽にし弾力があるようにしておくのです。

(註) 弓の持ち方や弾き方に新旧や流派云々する人もありますが、どれが正しいということは定められるものではありません。弓を持つ右手の親指の長い人や、小指の短い人は人差指が浅目になり、親指の短い人、小指の長い人は人差指を深目に持った方が弾きやすいのであります。又弓先を使う時などはその人の手の長さによって弾く形が違ってきます。それで各自の体格や手指の長さに合った持ち方を選ぶべきであります。しかしその持ち方や弾き方が解剖学的にみて合理的であって又生理学上最も楽に手の運動ができねばならないことは申すまでもないことです。このむずかしい弓や楽器の持ち方は初めは全て教師の指示に従いなさい。

運弓

遅い弓で強い音(*f*)を出すには駒の近くを弾き、弱い音(*p*)を出すには駒から離して弾きます。又弓を速く動かす場合も駒から遠ざけて弾きます。

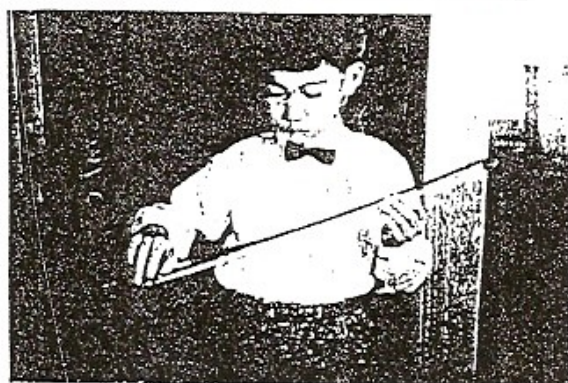


バイオリンを持って弾く前に下の方法で毎日弓の準備練習をなさい。

右手で弓を持つ強さは最も大切なことで、この力がげんが分かれば、バイオリン奏法のむずかしい運弓法も早く覚え、また美しい音を出すこともできるのですが、これはなかなか教えるににくいものです。わたくしは次のような方法を考案して、弓を持つ力を速やかに覚えさせ、また右手首や指の関節の運動も何倍も早く習得させることに成果を上げております。

5図のように弓を正しく持ってバイオリンのA弦上で弾く時と同じ高さや角度にして、弓の上の方を左手で動かさないようにしっかり持ちなさい。そして右手は実際弾く場合と同じ方向に上下運動をさせるのです。弓が固定しているので、右手首や指の関節が（実際に弾いている時と同じように）軽くゆれます。関節が少しも動かないのは弓を持つ力が強すぎているのですから、少しゆるめに持ちなさい。

(5) 右の手首及び指の関節の運動を覚える準備練習



この時肩を楽にし肘以外の手首や指の全ての関節は斜に運動させることに注意しなければなりません。

(6) S式肩当てをつけた図

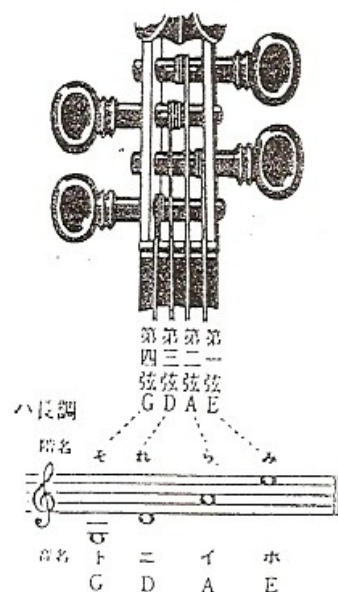
肩を上げないと楽器が持てない人はクッションをつけて持ちなさい。



楽器を持つのに左肩を差し上げると両手とも正しい運動が困難になります。

調子の合わせ方

バイオリンの調子は正確なピアノや音叉等に合わせるのですが、初歩者は四列の調子笛を使って、それぞれの開放弦（押えない音）を合わせるのが簡単です。そして慣れて来たらA弦（ラの音）だけを笛に合わせて、次にAとDとを二本同時に弾いて、その和音を聞いて合わせ、次にDとG、最後にAとEとを調弦するのです。音の高さが正確でないと上達しません。

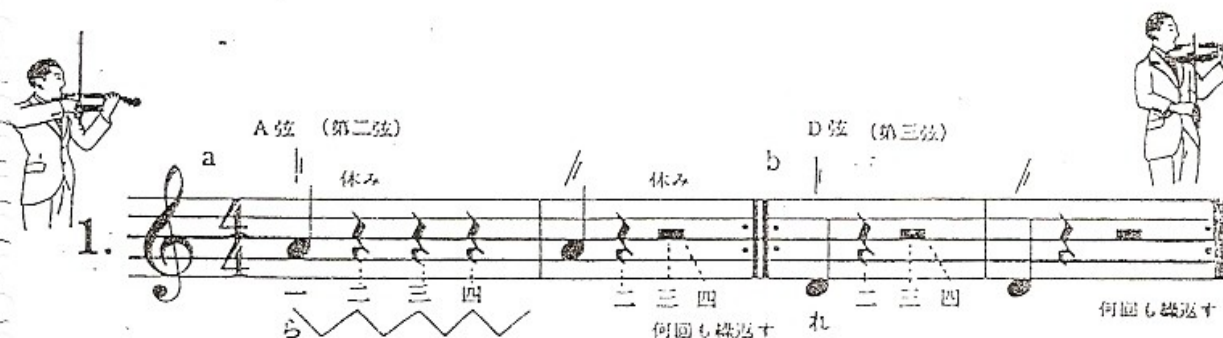


(押えないで弾く) 開放弦練習 四分音符（一拍）

一拍を弾き後の休みは次の弓を動かす用意のためですから十分待ちなさい。

三通りの弓使いを練習する(1)弓の中央三分の一(2)先三分の一(3)元三分の一

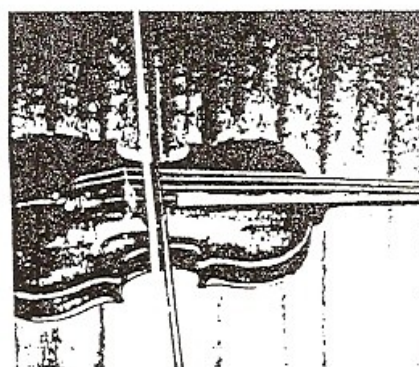
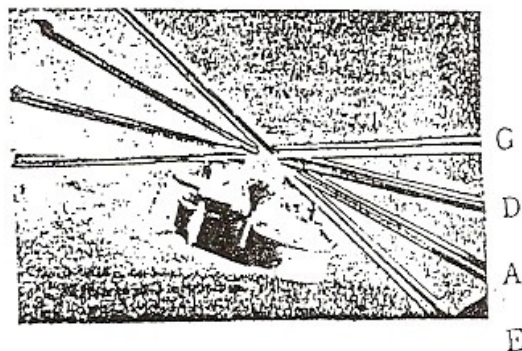
先半弓は肘関節を使う前膊運動で、元半弓は肩関節を使う上膊運動で、中央少しは肘と手首の運動で弾く。

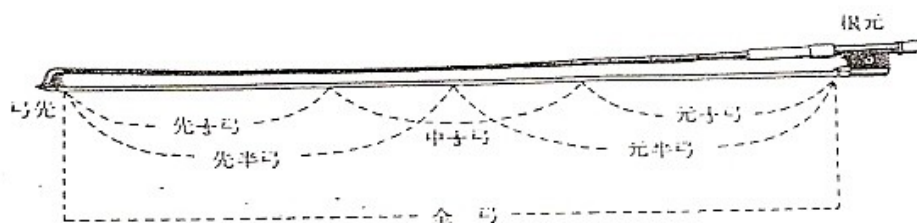


バイオリン及び弓の角度図

バイオリンはE弦（細い糸）の方を少し下げ、斜に持ちます。弓を持つ右手は各弦に応じて肘の高さを変えて弾くことが大切です。

弓は駒と指板の中間にあるア字孔の一番上の丸い穴の上を弾くのです。弓の根元は張りが強すぎて音が出にくいので少し外側に倒して弾きます。





運弓記号

この本には下のような弓記号がついていますから、それを見て弓の使い方を覚えなさい。

直線は弓を下向に引く
斜線は弓を上向に押す

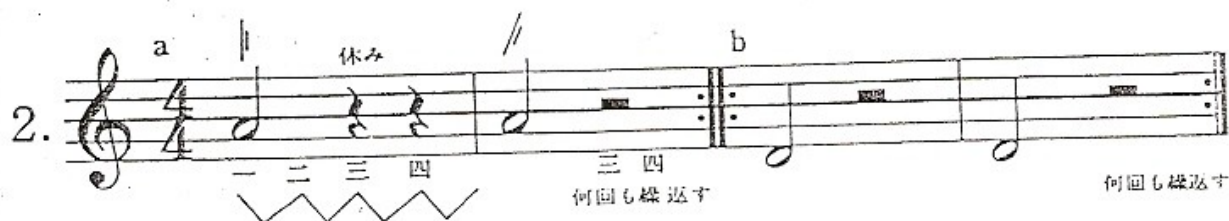
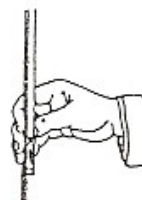
	元半弓		先半弓		中半弓
/	全弓	/	元少し	/	先少し
				/	中少し



二分音符 (二拍)

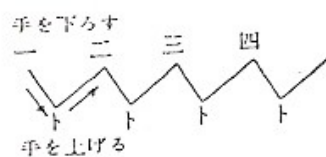
二拍を弾き後の休みは次の弓を動かす用意のためですから十分待つのです。

三通りの弓使いを練習する (1) 中半弓 (2) 先半弓 (3) 元半弓



拍子の取り方

以後は楽器を持つ前に右に記した方法で手拍子を取って譜を読む練習をしない。



全音符と全休符

二分音符と二分休符

四分音符と四分休符 八分音符と八分休符



勘所と音符を速かに覚える方法

3.

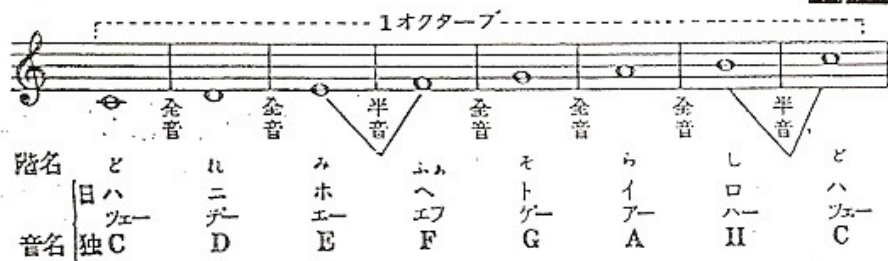
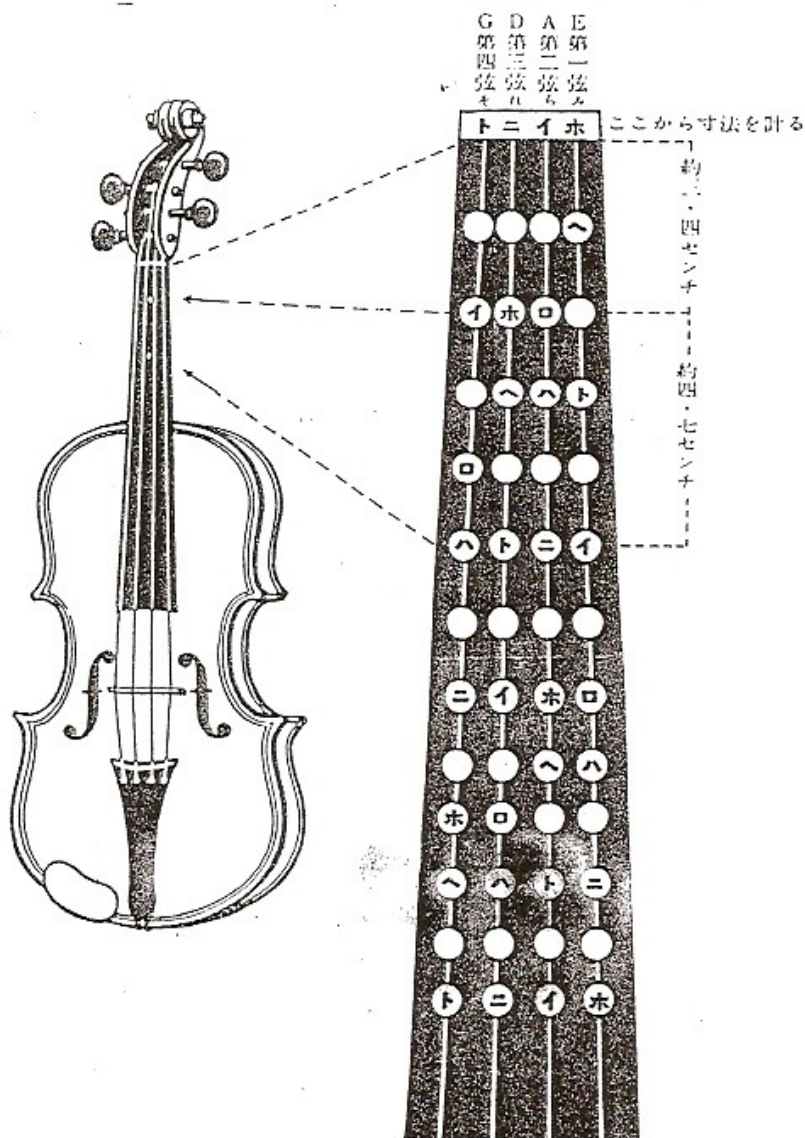
バイオリンの勘所（押えて音を出す場所）は図に示した通りですが、初心者は下図のようにA弦の(ロ)の勘所と(ニ)の勘所に当る二ヶ所に目印をつけると楽に練習ができ、ずっと早く上達することができます。

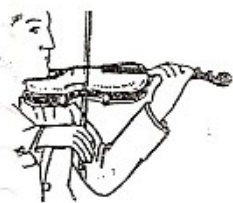
篠崎 弘嗣創案

記号のつけ方

指盤上のA線とD線の間に釘の先などで小さな穴をあけて、白墨かクレヨンを塗りなさい。

右図の寸法は大人用ですが楽器によって幾分相違がありますから、音の解る人になのみなさい。





左手指毎日の練習

4. 開放弦を練習している間に弓を用いず左指だけで弦を押える練習をしましょう。

人差指は第一の印の所

中指は人差指にくっつけて

薬指は第二の印の所

小指は薬指からはなして

(1)

(2)

(3)

(4)



この左指の押える力かけんが音色や手の形、また右手弓の技術まで大に関係しますから、はじめに立派に覚えてください。練習する前に10ページの姿勢、持ち方をもう一度よく読みなさい、まず楽器を持つのに左肩をさし上げたり、力を入れてはいけません。

A) 人差指、中指、薬指、小指の4本で同時に同じ強さで指板上の弦を打ってみます。4本の指が同じ力で弦に打ち下ろせる持ち方が各自の正しい持ち方です。

(1) 最初に人差指で打つ練習をし、弦に打てるようになったならば (2) 中指の練習をし、(3) 次に薬指で (4) 最後に小指の練習をしましょう。押える時には指先だけの力で強く打ち下ろすようにして、決して指の関節や手首が強く張るまで強く握りしめてはいけません。ビブラートのつくぐらいの力がよいのです。またすべての指は弦から放した時にも、曲げたままの楽な形にしておくのです。

B) これも私の創案ですが、おのおのの指は押えた時、ビブラートをつける時のような運動をさせてみます。指の関節が動かないのは、押えた力が強すぎるのです。指先が弦からずれるのは押え方が弱いのです。またこれからの練習中も、生徒が悪い形で押えている時には弓でひくのを止めて、Aの方法とこのBの方法で直すことができます。もちろん初歩のうちは弓でひく時に指をゆさぶったりしてはいませんが、ずっと先でビブラートが必要な時には、これがまた非常に役立って効果を上げるものです。

全音符(四拍)

四拍を弾き四拍を休む。弓を全部使って根元から先端同じ強さの音を出す練習です。

弓は今迄部分的に練習したものを総合して続けて弾けばよいのです。

弓の根元を使う時は小指と薬指で軽く弓を支え、引き下ろす時は先端にいくに従って指及び手首の柔かい弾力のある圧力を加えます。上行の場合はこれと反対にします。

5.

左右共肩や腕や手首の関節を強くしめてはいけません。楽器は顎で引っぱるようになってから持つのです。

弓の根元を使う時は手首はやや上方にふくらむ。
小指は指先を竿の上におき、親指は丸みを持ち弓と直角になる。

弓を引き下すに従って少しずつ手首が伸びて中央では縦線になる。

弓の先端にくるに従って手首はやや沈んでゆき小指は自然とはなれてもよい。
親指はのびて弓と鋭角になる。



右手弓 毎日の練習

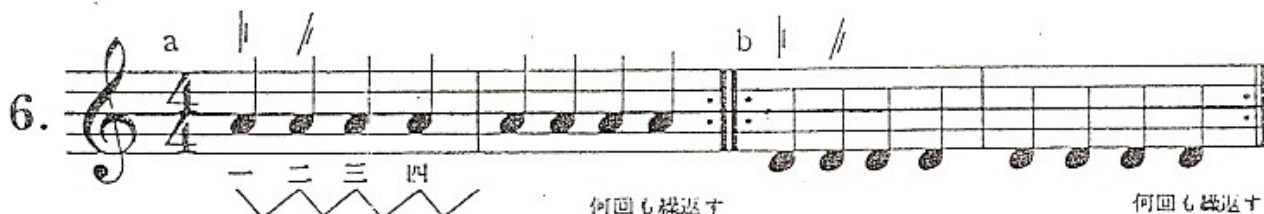
この6.7.8.9番は次に「毎日の練習」がある迄必ず毎日練習するのです。そしてまた他のE弦G弦上にも応用して弾きなさい。



最初小音符の練習をする。

三通りの弓使いを練習する。(1)中半弓(2)前半弓(3)後半弓。

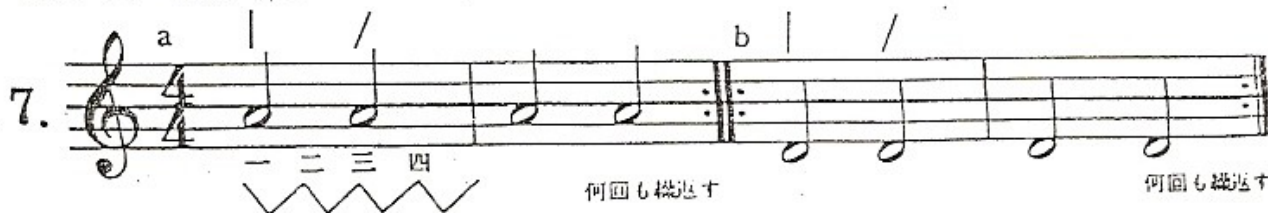
これからの練習は前の音を弾き終らぬ中に次の弓をかえす用意をする。



最初小音符の練習をする。

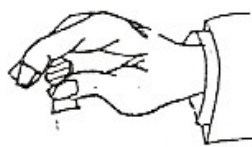
全弓を使う

弓を引き返す時各音間が途切れたり雑音が出ないように手首を滑らかに運動させる。



親指の持ち方が悪いと手首や腕まで堅くなりますから注意しなさい。

右の親指は普通手を下げた時の自然のままの形で指頭を弓のおくの端と筆とに半々位に当てます。人差し指は指先から第一と第二の関節の間にななめに持つのですが各人の親指や小指の長さによって幾分差ができます。



悪い
親指が深すぎると
こんな形になる



親指の正しい形



悪い
親指が浅すぎると
こんな形になる

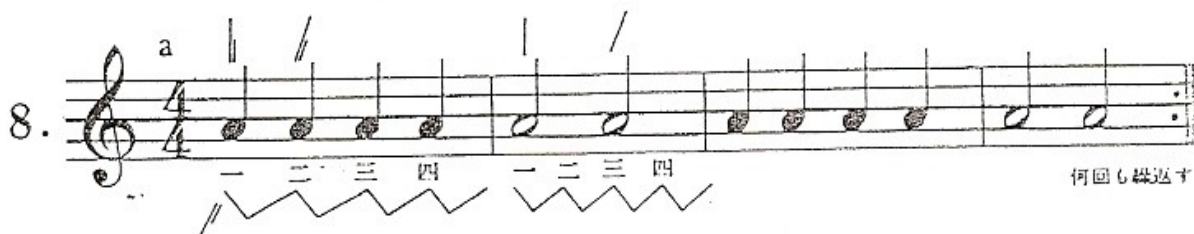
二分音符と四分音符



最初小音符の練習をする。

四分音符に半弓二分音符に全弓使う。

二通りの弓使いを練習する。(1)下げ弓で始める。(2)上げ弓で始める。

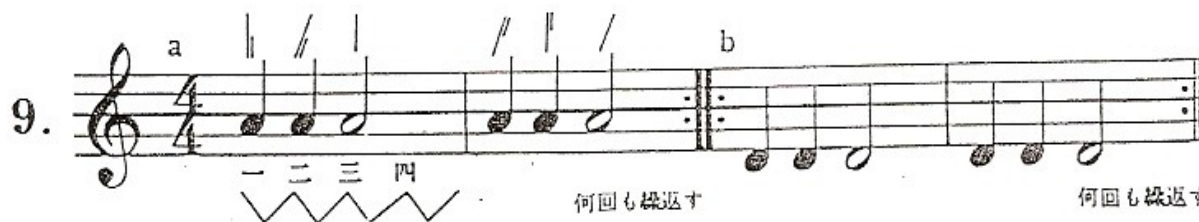


何回も繰返す



何回も繰返す

上と同じ要領で四分音符に半弓二分音符に全弓使う。

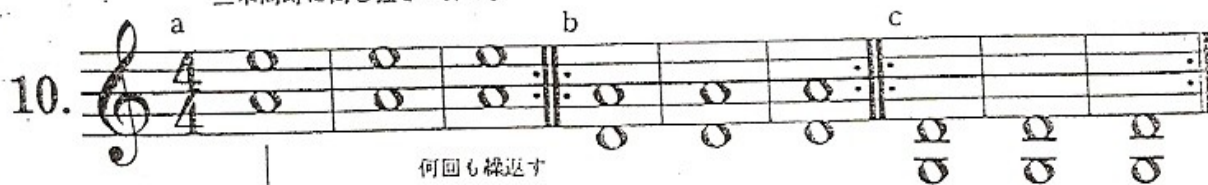


何回も繰返す

何回も繰返す

この和音を早く覚えなさい。調子を合わせるのに役立ちます。

二本同時に同じ強さに弾く。



何回も繰返す



A 弦を押える練習

次の練習は初めに、左指の形を立派に整え、正しい音程を作ってから弓で弾くようにしなさい。楽器は顎でしっかり持ち左手は親指だけが軽くネックにふれているだけです。押える時は指の根元の関節を使って指先の力で強く弦上に打下ろし直ちに指や手の関節は楽にしておくのです。この最初の押え方の良し悪しが総ての指にも又弓の技術にも関係しますから立派に習得しなさい。

全て楽器を持って練習する前にどれみふあで譜を読んで歌う稽古をしなさい。

そして次に弓を用いず左指だけで押える練習をすとなおよいのです。

1 指は第一の印の所

教師は初め楽器で弾いて生徒に歌わせて音程を教えて下さい。

11.

放す

何回も繰返す

何回も繰返す

各レビート（繰返す記号）はそれぞれ10回位繰返して練習する。

c

d

何回も繰返す

何回も繰返す

e

f

何回も繰返す

何回も繰返す

繰返しの時は反対の弓になる

12.

a

休み

二 三 四

何回も繰返す

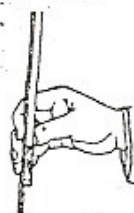
b

何回も繰返す

バイオリンは楽器や弓の持ち方がむずかしいのです。これが上手にできれば上達も速いのです。持ち方の頁を繰返して読み又各頁の絵と自分の姿勢とくらべて研究しなさい。

指 記 号

- 1 は人差し指で押える。
 - 2 は中指で押える。
 - 3 は薬指で押える。
 - 4 は小指で押える。
 - 0 は開放弦（押えない）の記号
- で特に注意する所につけます。



17/09

13.

 a 2指は1指にくっつけておさえる
 b 半音
 何回も繰返す
 c 何回も繰返す
 d 何回も繰返す
 1 2
 し ど

点線.....の記してある間は押えた指をそのまま残しておく。

e f
 何回も繰返す 何回も繰返す
 1..... 1.....

1指と2指（の半音）をくっつけて押えるように注意する。

14. a
 0 1..... 二 三 四
 何回も繰返す

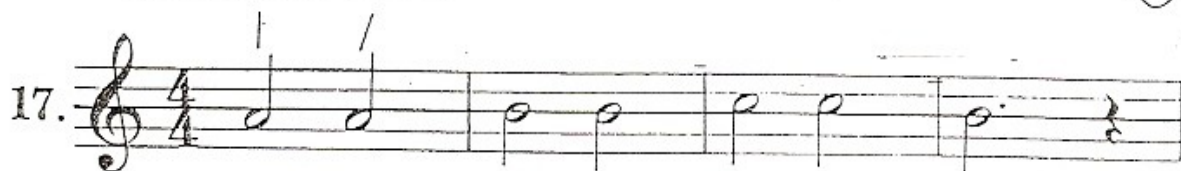
b
 1..... 何回も繰返す

★ ここが23頁と24頁の各曲の初めの四小節だけを先に練習しなさい。

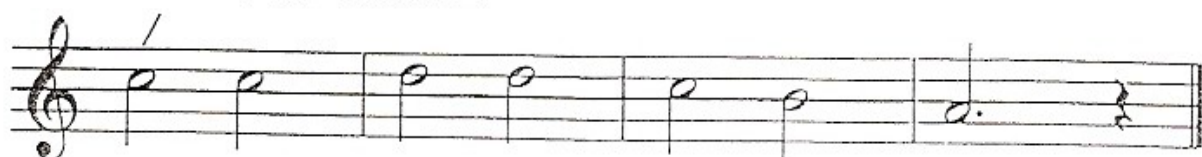


パサニヤの唄

いつも楽器で弾く前に必ず譜を読んで歌うけいこから始めるのです。楽譜を読んで1度1回は楽器で立派な演奏はできません。



| 直線は弓を下向に引く
/ 斜線は弓を上向に押す



四拍子は 一 二 三 四 (変 奏)
最強 弱 強 弱 バリエーション (1)

(通りの弓使いを練習する)



1 中半弓
2 先半弓 3 後半弓
最強 弱 強 弱



初め小譜を何回も練習する。

(変 奏) バリエーション (2)

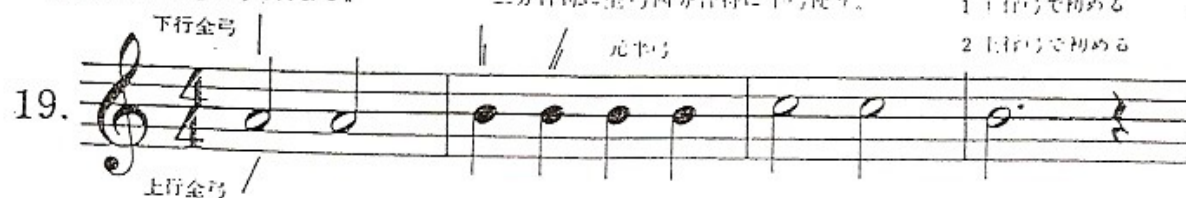
(通りの弓使いを練習する)

繰返しの際は上げ弓で初まる。

二分音符に全弓四分音符に半弓使う。

1 上げ弓で初める

2 上げ弓で初める



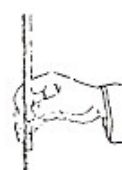
下行全弓 / 上行全弓

先半弓

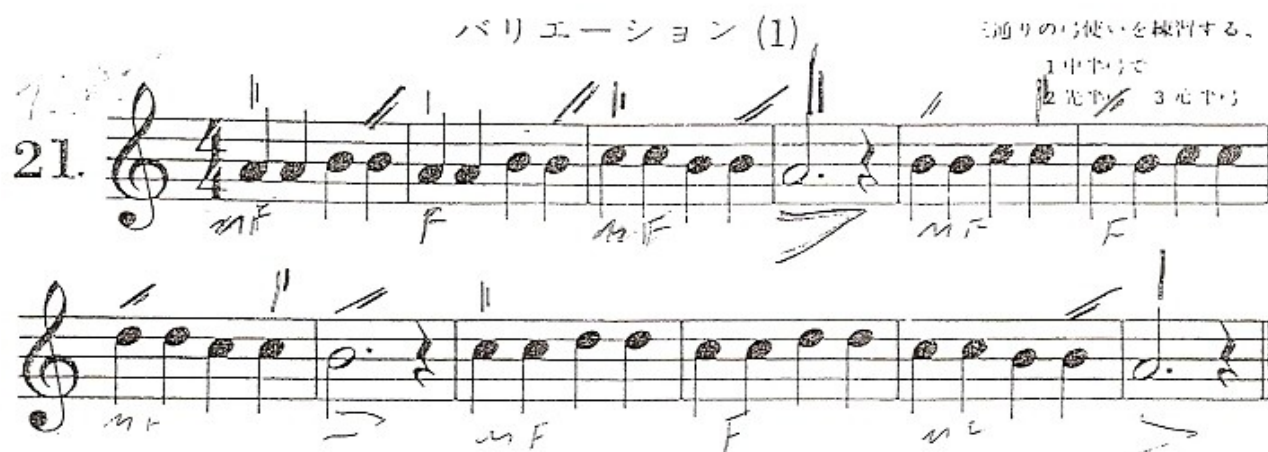




いつも楽器を持つ前に譜を読んで歌う格調を必ずしなさい

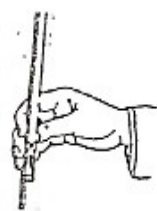


ゆっくり弾いて美しい音を出すように



初め小譜を何回も繰返して



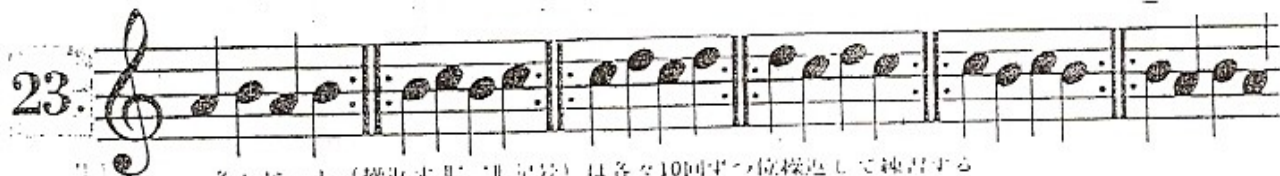


毎日の練習

D線に入るまで



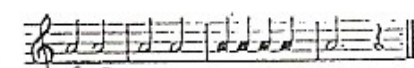
助所（押える場所）は正確にあった時、最も気持ちよく楽器がひくものですから、
記号だけに頼らずよく音を聞き分けながら練習することが大切です。



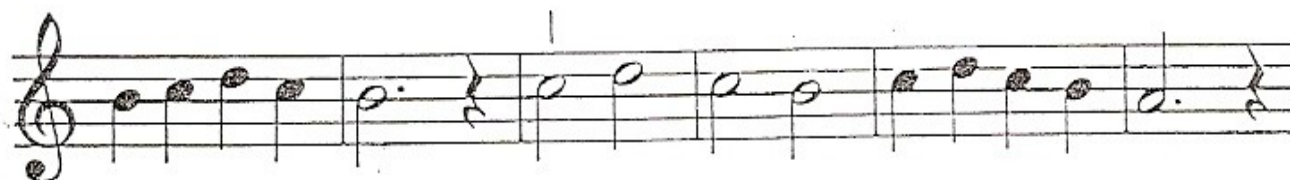
各レパート（横返す所：|| 記号）は各々10回ずつ位様返して練習する



準備練習



ピエロの唄



子守歌

はじめ拍子を正しく取って、歌うけいこをして後にひくのです。





左親指は押える指の運動を助けるため、最も楽な所におき無理な力を入れないようにします。

A弦上の各指の位置



4 指の音はE弦の音と同じになる。

27. a b c
3 れ 4 み
何回も繰返す
何回も繰返す

1 2 3

楽器を持つ前に楽譜を読んで歌う練習を怠れないように。

27番は左記小譜のようなリズムでも練習しなさい。

28.

1 2 3 4
点線……の記してある間は押えた指をそのまま残しておく。

ア グ ー ジ オ

(ゆるやか)

29.

ゆっくり弾いて小指の音程によく注意する。

初め小譜を何回も練習して

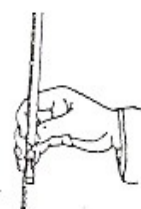
バリエーション

30.

二分音符は弓を大きく四分音符にはその半分を使って弾きなさい。



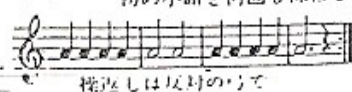
この本はバイオリンの指板に必ず印をつけて練習しなさい。



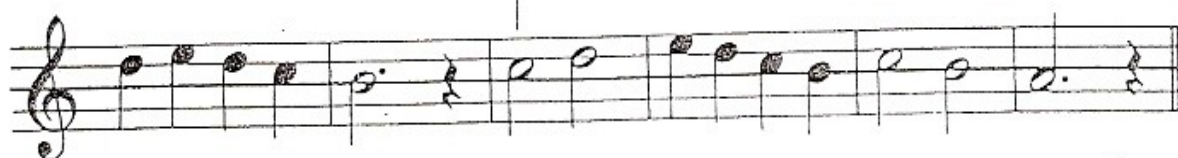
初め小譜を何回も練習して

小 舞 曲

強く軽やかに面白く



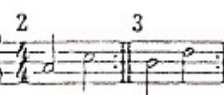
様返しは反対の方で



1 初め小譜を何回も練習して

ロ マ ン ス

弓の使用部分を余り気にしないで
拍子を正しくきれいな音で弾く。



何回も繰返す





教師は初め楽器で弾いて生徒に歌わせて音程を教えて下さい。



D 弦練習

D弦の押える位置は全てA弦と同じで4.

33.

あひるのうさま

うさまのうさま

四拍子の最強弱強弱を忘れないように。

Lesson 10

Exercise 1

a b c

ふあ そ

Exercise 2

a b c

そ ら

4 指の音はA弦の音と同じになる。

4 指の音は A 弦の音と同じになる。

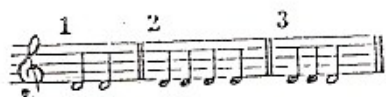
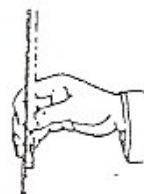
毎日の練習必ず強さをい。

音程をよく聞き分けて指が楽になるまで各小節を何回も繰返して弾く。

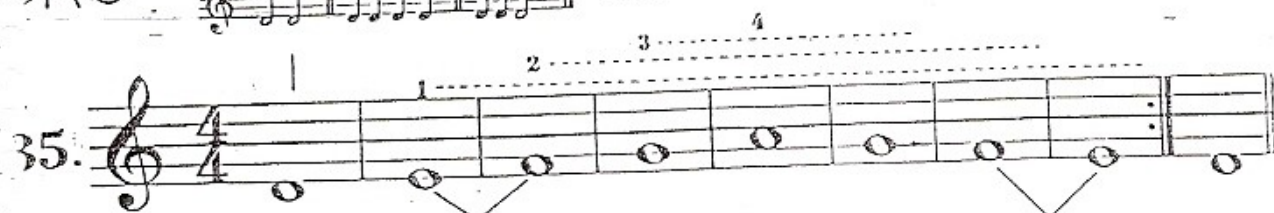
34.



D弦上の各指の位置



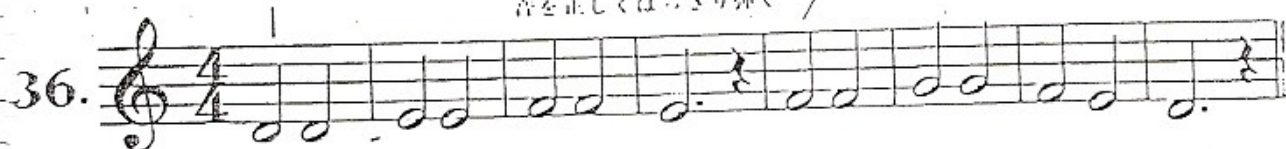
左記小譜のようなリズムでも練習しない。



いつも楽器を持つ前に譜を読んで歌う音高から切るので

バサニヤの唄

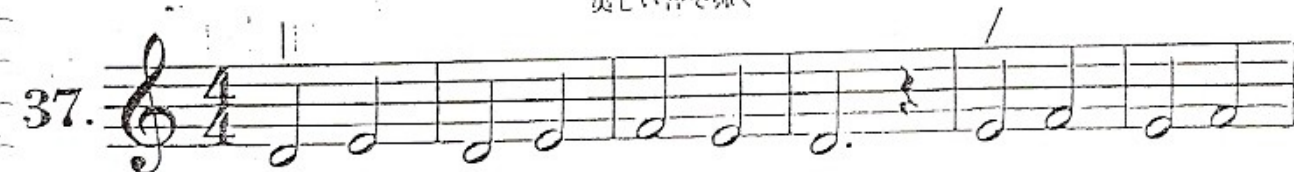
音を正しくはっきり弾く /



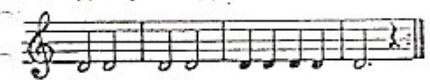
A弦と同様に要否の練習をする

い す み

美しい音で弾く



初め小譜を何回も練習して



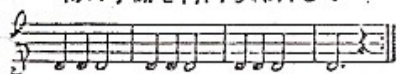
ピエロの唄

拍子を正しく取って



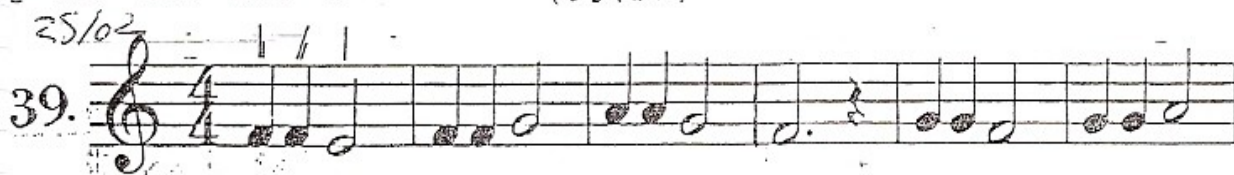
25/02

初め小譜を何回も練習して

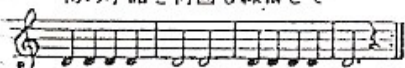


アゲージオ

(ゆるやかに)

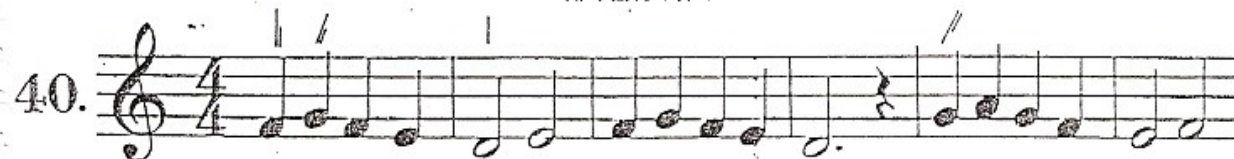


初め小譜を何回も練習して



小舞曲

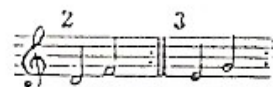
軽く面白く弾く



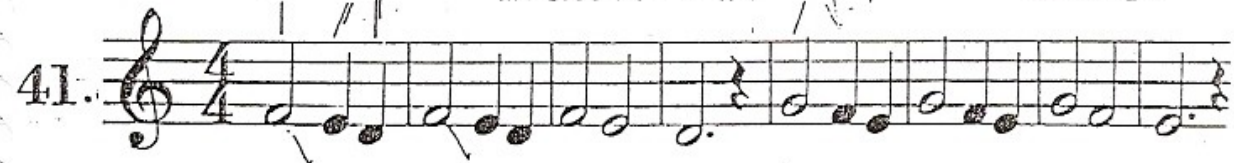
何回も繰り返す

ロマンス

拍子を正しくきれいな音で



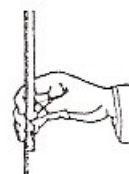
何回も繰り返す





指導者へ

生徒に悪い姿勢がある時は、各頁の上にある姿勢の絵に赤鉛筆などで悪いところに印×をつけて注意し、一日も早く直すようにして下さい。



A.D 弦 混 合 練 習

ここでは弓の使用部分を気にしないで、二本の弦に上手に弓が変るように練習しなさい。

A弦を弾く時は、D弦を弾く時よりも肘を下げる。

12.

a D弦 A弦 b A弦 c D弦 A弦

0 0 0 3 0

何回も繰返す 何回も繰返す

(左指) 弓が他の弦に移る時は次の音が完全に出てしまうまで、前の指は離してはいけません。

13.

a 3 0 1 0 b 0

全て何回も繰返して弾く。

c 1 0 3 0 d 0

今しばらくはA弦とD弦の二本の関係をよく覚えることが大切です。

1 | 何回も繰返す

賛 美 歌

2 | 何回も繰返す

H. Shinozaki

14.

a 0 0 b 0

弓をゆっくり
そのまま

c 0 0 d 0

毎日の練習



音程をよく聞き分けて指が楽になるまで各二小節を何回も繰返して後にAはつづけて弾く

5. 何回も繰返す 何回も繰返す

1 何回も繰返す

子 守 歌
しずかに歌うように

2 何回も繰返す

Con Sordino (弱音器をつけて弾く) 弱音器をつけると音に変化があらって面白く練習ができます。

6. 注意

初め小節を何回も練習して
1 一 二 三 四

ア レ グ ロ
(かいそくに)

2 何回も繰返す

この曲は後で下の小節のように二つずつにきざんで弾く練習をしなさい。

17. 休息の間に弓をかえて

何回も繰返す



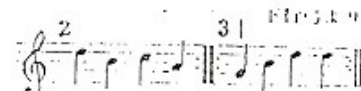
四分音符は口の中三分の二位の位置を使い、三分音符以上は全力を使ってきれいな音を出し、減音のように減速しない。当分4拍の記号のない場合はAの開放弦で弾くのです。

小指は必ず練習しなさい。

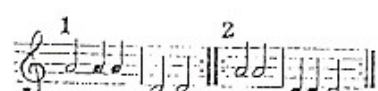


何回も繰り返す

ちよう ちよ



何回も繰り返す 4/ 何回も繰り返す



何回も繰り返す

むすんでひらいて

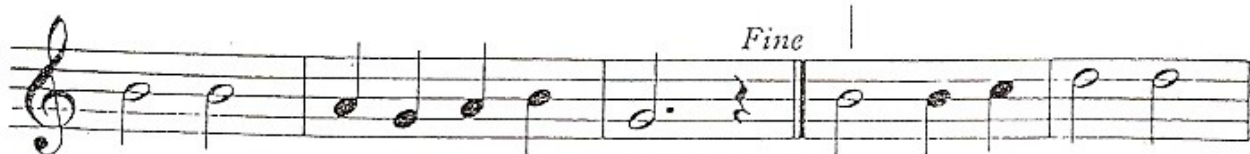
初めは四拍子で練習し、後に三拍子で弾きなさい。



同じ指で



同じ指で ドイツ民謡



Fine

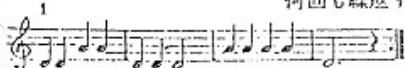
二度目ここで終り



何回も繰り返す D.C

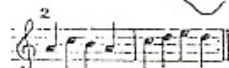


何回も繰返す



ルーマニヤ舞曲

軽く面白く



何回も繰返す

H. Sinozaki

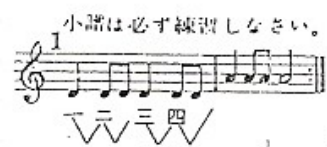


弓をかえて



弓をかえて

ロングロングアゴー



小譜は必ず練習しなさい。

この曲はまだ習っていない八分音符がでて来ますが、皆さんが知っている曲ですから弾いてみてごらん下さい。そして後に小譜のようにきざんで弾く練習をしない。



T. H. Bayly

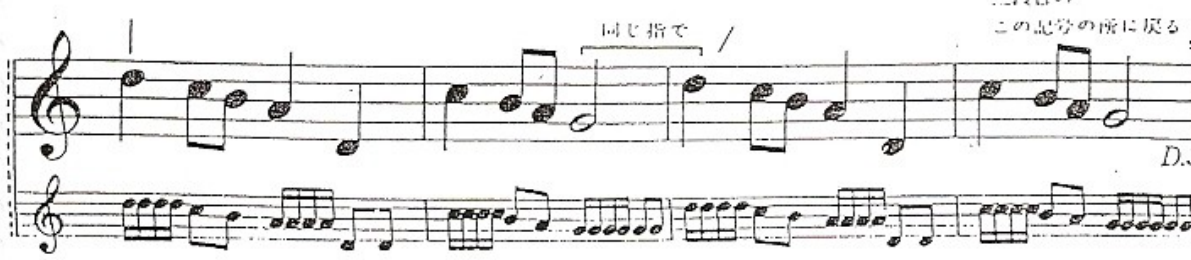


手首と肘を柔らかくしてきざんで弾く



Fine 二度目ここで終り

休みの間に弓をかえす



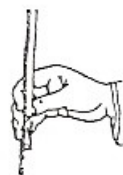
同じ指で /

二度目のこの記号の所に戻る

D.S.



毎 日 の 練 習 (三度音程) 一つおきの音 (指)



3 と 1 指を押えたまま... 初め各小節を何回も繰返して練習し、後につづけて弾きなさい。

52. 何回も繰返す

何回も繰返す

前 奏 曲

音程によく注意して

何回も繰返す

H. Sinozaki

53. 何回も繰返す

何回も繰返す

何回も繰返す

弓をかえて

何回も繰返す

モ デ ラ ー ト

(中ぐらいのはやさで)

何回も繰返す

H. Sinozaki

54. 何回も繰返す

何回も繰返す

何回も繰返す

弓をかえて



六度音程と移弦の練習

55.

56.

スラー練習

(スラー) 音と音との間に切れ目や重音が入れぬように一弓で円滑に続ける奏法です。
練習方法 初めは一音を弓の中央まで弾いて弓を止めて、次の指を押えて又同方向に弾きなさい。

57.

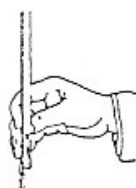
58.

まだ無理と思う生徒は一度スラーなしで先に進みなさい。



一小節内後半スラー

弓記号に注意しなさい。

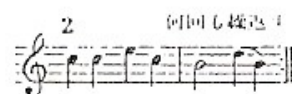


二音を一弓で弾く時は、一音に対して半半分使うことをよくおぼえておきなさい。



ゆ か い な 行 進

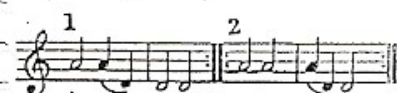
スラーのある音に注意して



何回も練習し



II. Sinozaki



むすんでひらいて

拍子を正しく取って



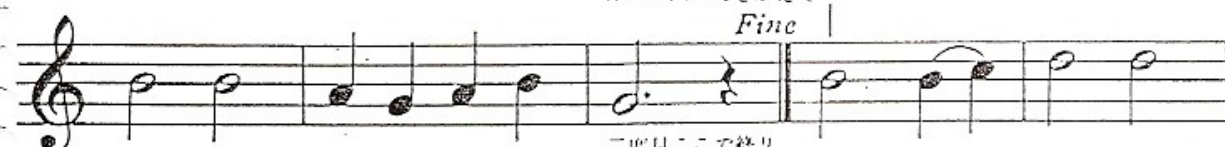
同じ指で



ドイツ民謡

休みの間に弓をかえて

同じ指で



Fine

二度目ここで終り



初めに戻る D.C.



G 弦 練 習

G弦を弾く時は左腕の肘を胸の方に寄せ、右肘は手と同じ高さまで上げない。

1 指は
第一の印の所

62.

2 指は 1 からはなして 3 指の方にくっつける。

第二の印の所

3 指は 2 指にくっつけておさえる。

4 指の音は D 弦の音と同じになる。

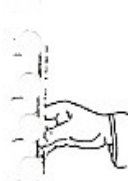
毎 日 の 練 習

(1)スラーなして(2)二音ずつスラーで

63.

音程をよく聞き分けて指が楽になるまで各小節を何回も繰返して弾く。

ここから「れど」
と逆戻りして弾く



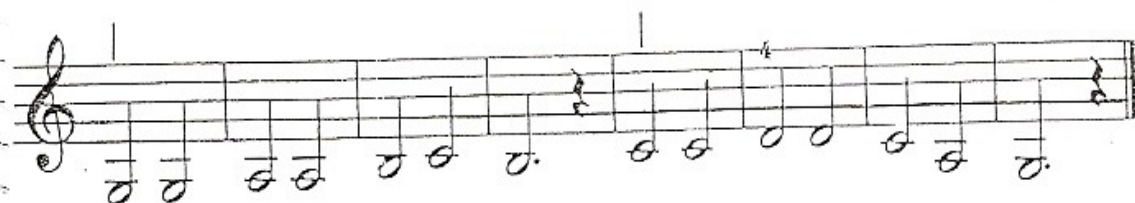
G弦上の各指の位置



左記のようなりズムでも練習しなさい。



アンダンテ
(少くくらののはやまで)

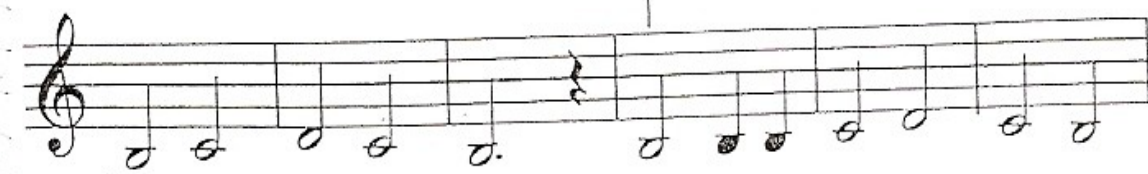


静かな森

三分音符は「はい」に替って



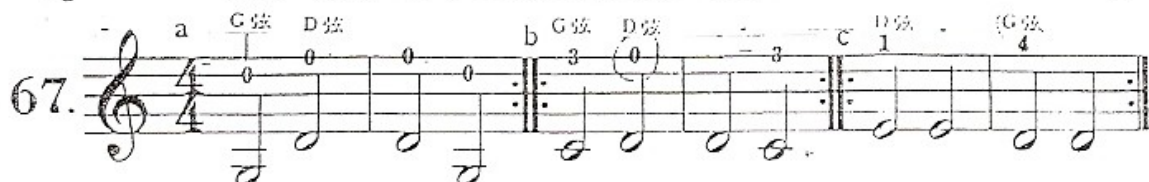
H. Sinozaki



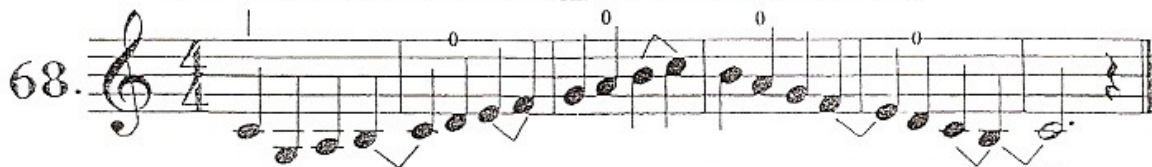


A. D. G弦混合練習

(右手) 弓が隣の弦に移る時は肘の高さを変えることを忘れないように。



(左指) 弓が隣の弦に移る時は次の音が完全に出るまで前の指は離さないのです。



付点音符の練習

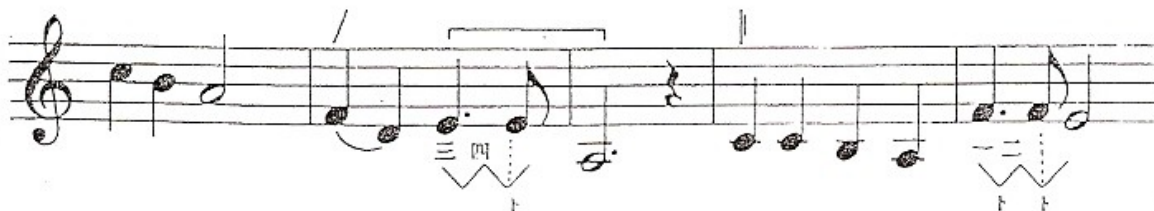


荒城の月

総て曲の練習は上手な歌手が歌うように演奏するのです。弓の圧力及び速力は歌う時の声の出し方に等しいものですから、よく注意して練習しなさい。

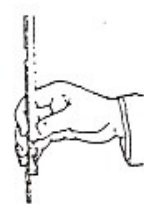
R. Taki (1879-1903)

滝 城太郎 作曲





(三音ずつスラー) 四分音符一音に対して(半分の倍)



71.

小品は必ず練習しなさい。

ルーマニヤ舞曲
中々には意して軽く面白

H. Sinozaki

72.

モテラート
(中々らしいのはやさ)

H. Sinozaki

73.

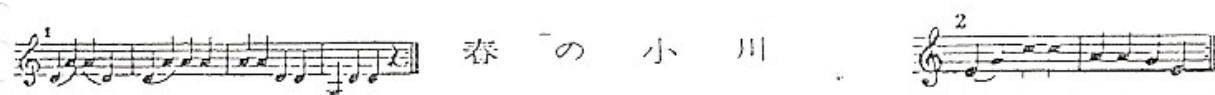


下の二曲をよく練習して、すかしいこの「」の使い方を習得しなさい。

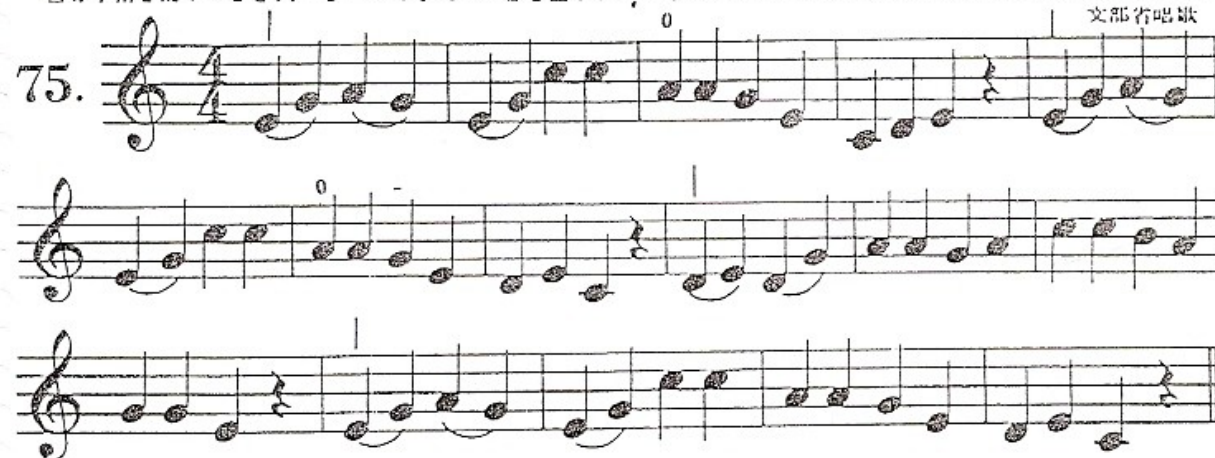
一小節内初め二音スラー

74. 

1 繰返しは反対の方向になる



当分小指を使うことを気にしないできれいな音を出すように心がけなさい。小指が必要な時は4の記号があります。

75. 

文部省唱歌



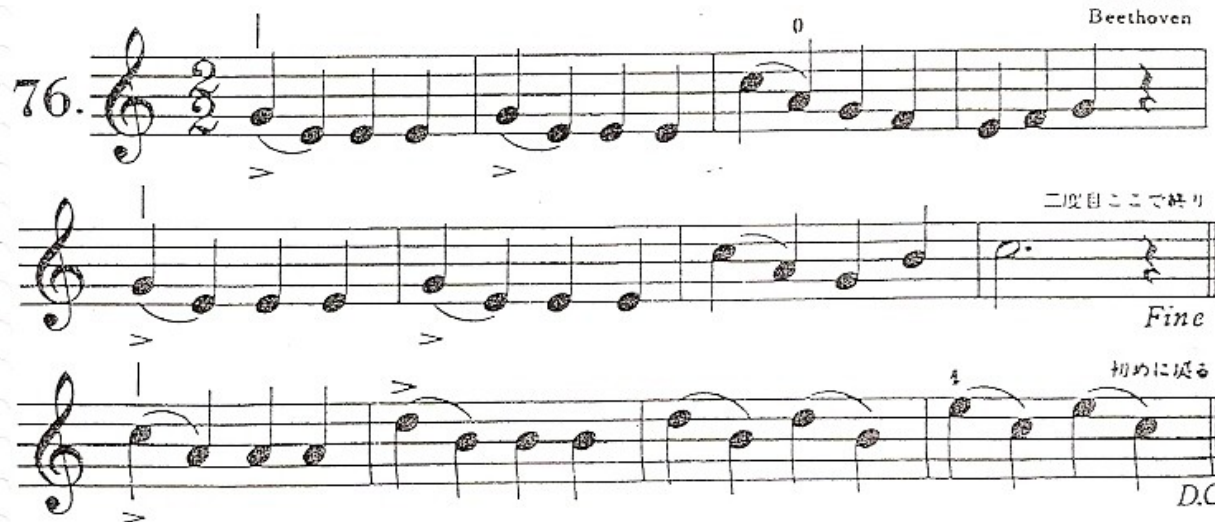
行進曲

(>)特に第一拍を強く元気に



ドイツ(1770-1827)

Beethoven

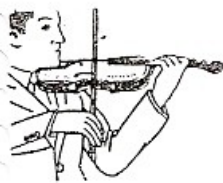
76. 

二度目ここで終り

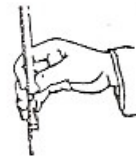
Fine

初めに返る

D.C.



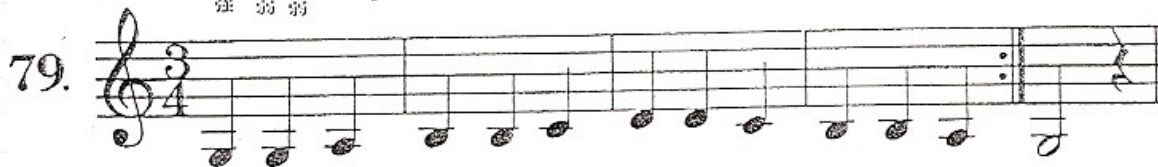
毎日の練習



音程をよく聞き分けて指が楽になるまで各二小節を何回も繰り返して後は
つづけて弾きなさい。 初めはスラーなしで



四分の三拍子練習



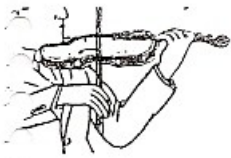
小指の練習を忘れないように。

アンダンティーノ

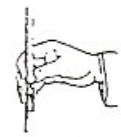
(アンダンテより少しはやく)

三拍子の強弱に注意して





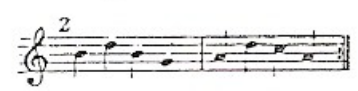
遅い全弓と速い全弓



初めの二分音符は弓を落ちながら弾き、二拍目の四分音符は弓に圧力を加え、速かに全弓を上げて音の強さを平均させる。遅い弓で強い音を出す時は胸に近い方を弾き、速い弓や弱い音を出す時は脇から遠ざけて弾く。

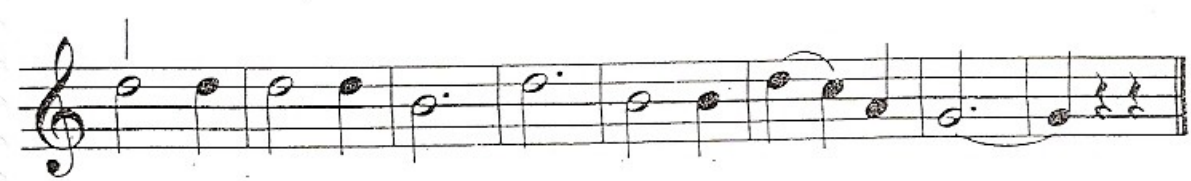
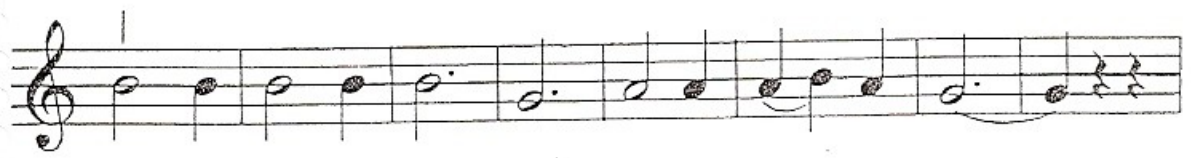


ツェルニーより



オーストリア (1791-1857)

弓を提げて強く



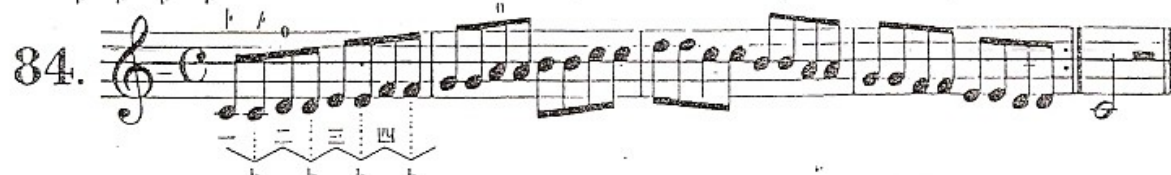


八 分 音 符

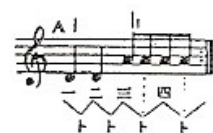
弓を短かく使って速く動かす時は肘を
手首を柔かくして弾くのです。



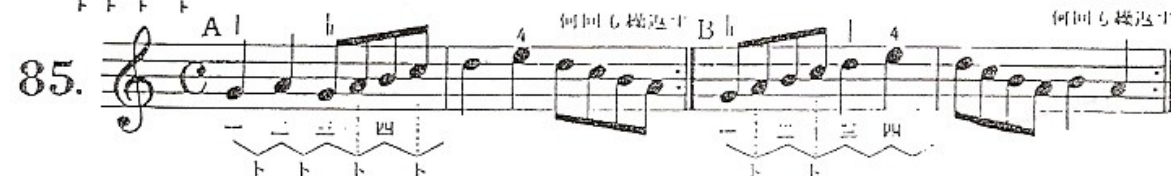
三通りの弓使いを練習する。(1)中平(2)丸平(3)丸平。



いつも初めは楽器を持たず手拍子だけ取って話を読み練習をします。
四分音符に全弓、八分音符に半弓使う。又4拍子及び5拍子でも練習をする

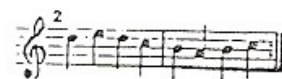


小話の練習を忘れないように



繰返しは反対の弓になる

ガ ボ ッ ト



(四拍子の舞曲)

Allegretto (や・はやく)

H. Shinozaki





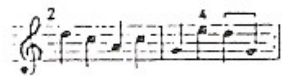
四分音符は全が八分音符に半弓使う



八分音符一つにはスラーがある時、
音に対して半弓ずつ使う。



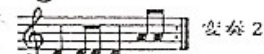
春 が 来 た



変奏1 八分音符は四分音符の半弓を使う。

速く弾くときはすべてに弓をすくなく使いなさい

休みの間
弓をかえ



変奏2

弓をかえ



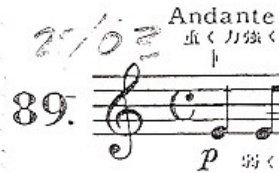
ロボットの力くらべ



力強く重々しく弾く



f 強い音は弓を大きく、*p* 弱い音は弓を小さく使う。



Andante
重く力強く

H. Sinozaki



W か い な 娘



上手に速いテンポで弾けるまで練習しなさい。



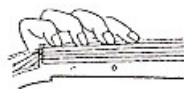
Allegretto

同じ指で

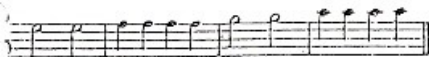
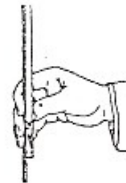
H. Sinozaki



D.C.
初めからもう一度弾く



E弦上の各指の位置



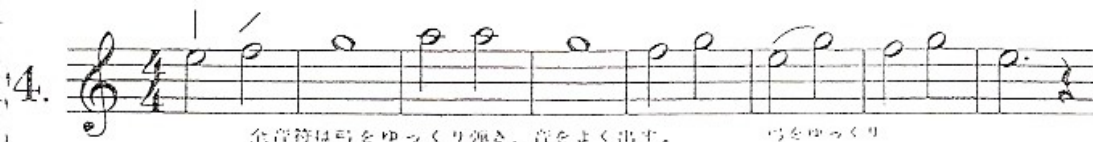
小譜のようなリズムでも練習しなさい。



ア ン ダ ン テ

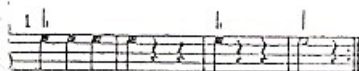
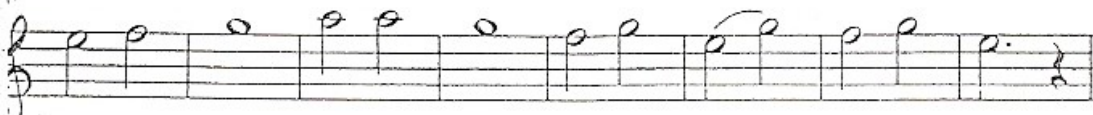
1 指の音に注意して

(歩くぐらいのはやさで)



全音符は弓をゆっくり弾き、音をよく出す。

弓をゆっくり



中半弓と前半弓の二通りを練習しなさい。

水 車

休譜と弓使いを正しく守って



ホーマン
HOHMANN より





全弦混合練習

96.

(左指) 弓が隣の弦に移る時は次の音が完全に出てしまおう。前の指は押さえたままにしておくのだ。

97.

98.

Con Sordino (弱音器をつけて弾く)

子 守 歌

1 指の音程に注意する。

Andante (歩くぐらいの速さ)

1 指の音に注意して美しい音で

99.

後で二分音符にも四分音符にも全弓を使い、二分音符は弓をゆっくり動かして平均したきれいな音を出すように練習しなさい。



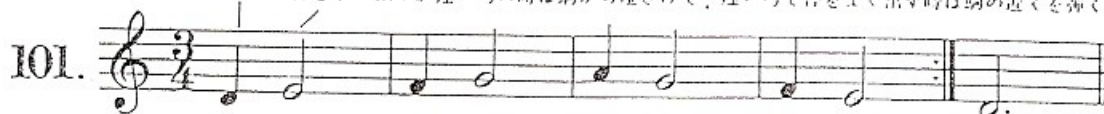
毎日の練習

初めはスラーなしで、次は二音ずつスラーで、最後に四音ずつスラーで。



速い全弓と遅い全弓

一拍目の四分音符は弓に圧力を加えず速やかに引き下ろし、後の三分音符は落つて押し上げて音をよく出す。速い弓の時は駒から遠ざけて、遅い弓で音をよく出す時は駒の近くを弾く。



三拍子の強弱弱を忘れないように



後で上げ弓から始める練習もする。



アンダンティーノ (アンダンテより少しはやく)

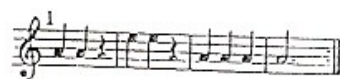
f 強い音は弓を大きく、 *p* 弱い音は弓を小さく使う



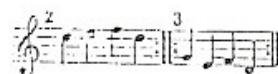
H. Sinozaki



いつも楽器を持つ前に譜を読んで歌うのです。



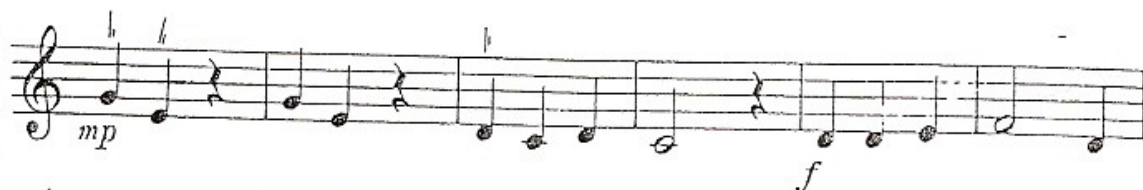
春の使



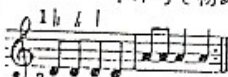
休符に注意して軽く歯切れよく

Moderato (中位いの遅き)

ドイツ民謡



下げ弓で初める



上げ弓で初める

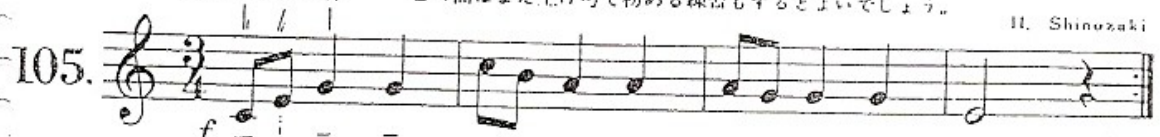
拍目が八分音符

田園舞曲

八分音符は四分音符の半分弓を使う。fは弓を大きくpは弓を小さく使いなさい。
この曲はまた上げ弓で初める練習もするとよいでしょう。



H. Shinozaki



二回目はpで

繰返す

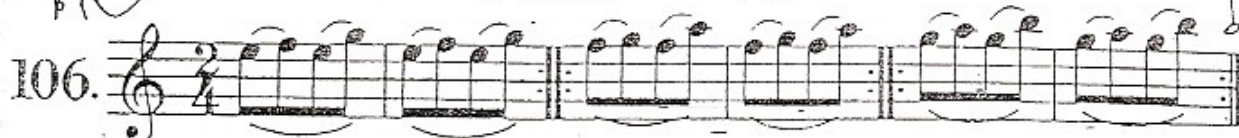


次第に大きく



毎日の練習

初めはスラーなしで、次に二音ずつスラーで、最後に四音ずつスラーで。



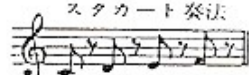
スタカート練習

私は下のようなスタカートの練習法を考へて従来の数倍も早く生徒に習得させることができるようになりました。音階はいつも最初この方法で練習しなさい。そうすれば苦勞を知らずにスタカート奏法を覚えることができます。初め(A)同じ音を二つずつ弾いてよく練習して後に(B)スタカートで弾くのです。

スタカートの準備練習。弓に圧力を加え速めに動かしてはらりひびく音を出す。



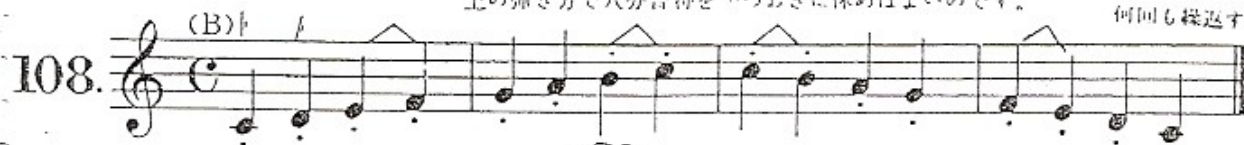
スタカート奏法



弓は普通の奏法と同じ操作で、ただ運動を急速に行ない、音と音との間に休符が入り鮮明な音を出して区切るのです。

上の弾き方で八分音符を二つおきに休めばよいのです。

何回も繰返す



小指をのぼす

何回も繰返す



子供マーチ

(行進曲)

リズムに注意して歯切れよく弾く



ドイツ (1810-1856)

R. Schumann



初めに於て、二回弾く



準備練習を忘れないように

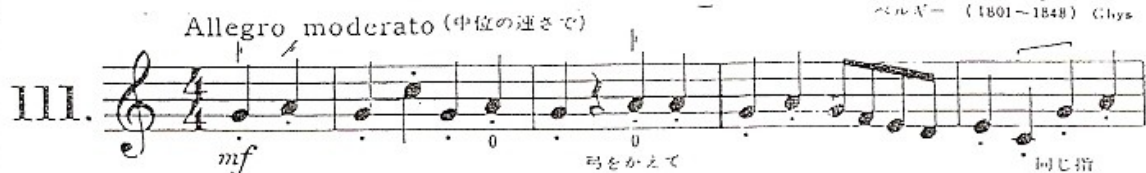


ア マ リ リ ス



小指をのばす

ベルギー (1801~1848) Chys



Allegro moderato (中位の速さで)

mf

弓をかえて

同じ指



小指をのばす

弓をかえて

二回目はここをひかめ



弓をかえて

初めに戻って何回もひきなさい。

短音階は長音階よりむずかしいから、よく注意して練習しなさい。

イ調短音階準備練習



♯がついた音には(い)をつけて
(ふい) (そい) (どい) と覚えておきなさい。



ふい 半音上る

そい

そい 元に戻る ふあ



Con Sordino (弱音器を用いて)

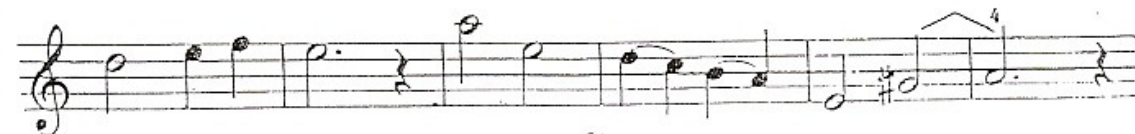
弓



Andante

やわらかい音で

H. Shinozaki





毎日の練習

ト調長音階

ニ調長音階に入るまで

今後各調の音階をすべてこの頁と同じように七種類の奏法で毎日練習しなさい。



114. 

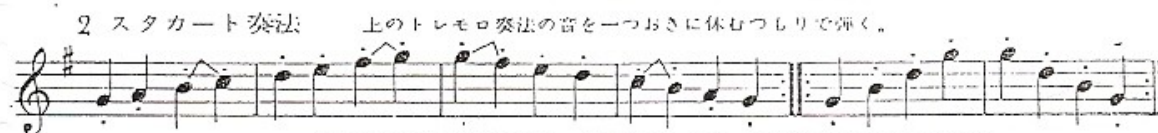
ト長調はへ音の音がすべて半音上る

115. 

1 トレモロ奏法

各音を二つずつにきざんで弾く。

手首の運動とスタカート準備練習。

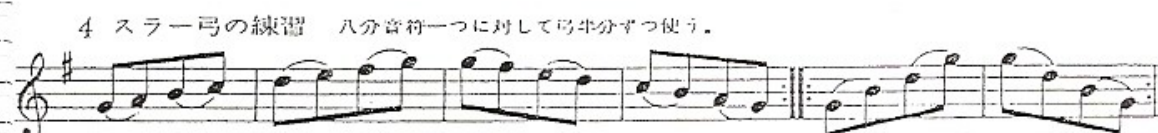
2 スタカート奏法 

上のトレモロ奏法の音を一つおきに休むつもりで弾く。

初めは二分音符の位置にゆっくり美しい音で、弓の変わり目に雑音が出ない

3 レガート奏法 

ように手首の柔らかな運動で滑らかに弾く。

4 スラー弓の練習 

八分音符一つに対して弓半分ずつ使う。

5 

四音を一弓で弾く時は一音に対し弓四分の一ずつ使う。

6 遅い全弓と速い全弓 

初めの八分音符三つの下行弓は、落着いて十分音を出し、後の八分音符一つ

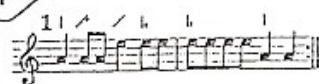
は弓に圧力を加えず敏速に引上げて音を平均させる。79番を読みなさい。

7 速い全弓と遅い全弓 

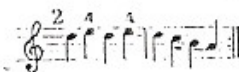
速弓は6番の反対の要領ですが、下行弓を速く行なうのはむずかしいので十分練習しなさい。



いつも楽器を持つ前に拍子を取って譜を読む練習を必ずするのです。



アレグレット
(や・はやく)



当分上の弓使いを応用して練習するのですが、特に拍子を正しく取って練習しなさい。



H. Shinozaki



同じところで終る

Fine



初めに戻る

D.C.

への音はすべて半音上る。

初め同じ音を二つずつにきざんで弾いて後にスタカートで弾きなさい。



王様ジョー
スタカート練習



Allegro (かいそくに)

イギリス民謡





付点音符練習 遅い下行弓と速い上行弓



下行弓は落ついて十分音を出し、後の八分音符は弓に圧力を加えず敏速に引き上げて音を平均させる。

初めの付点四分音符に弓四分の三を使い、後の八分音符に四分の一を使う。



ドイツ舞曲

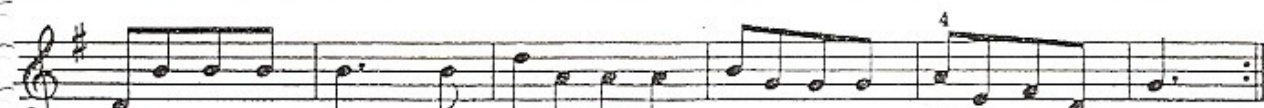
付点音符の後の八分音符が強くなりすぎぬように注意して。
この曲はスケートのように歯切れよく活発に弾きなさい。



06/05 Allegretto



弱拍から始まる
ときは上げ弓で



初めに戻って二回弾く



主よ御許に近づかん

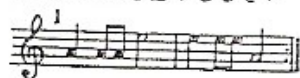


以後ゆっくりした歌うような曲では、全音符、二分音符、四分音符とも全弓を使い、平均した音を出すように練習しなさい。

T. Ryder
賛 美 歌

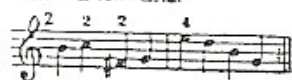


小指の練習を必ずしなさい



旅 愁

2 指の音程に注意



スラーのない八分音符は弓を小さく使ってリズムを正しく

13/05

Moderato

122.

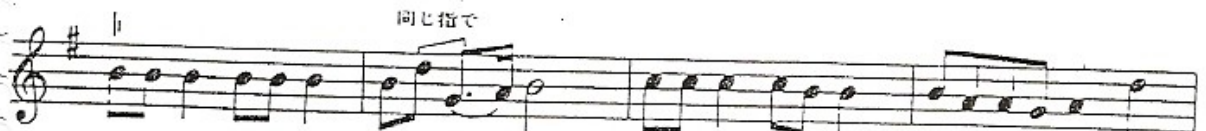
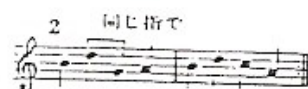


(2 下げる)(2 上げる)

音程に気をつけて



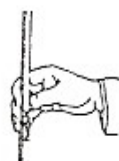
ジ ン グ ル ベ ル



J. Pierpont

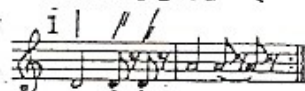


セミレガート奏法

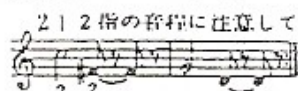


スタカートにスラーがある場合、準備練習のような奏法になります。一音を押し上げスタカートの休みの間に手首を柔らかくして、次の上げ弓の用意をしておくのです。

準備練習を忘れないで

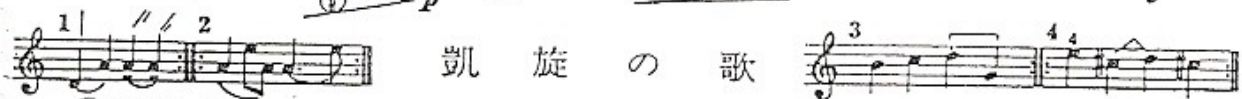


春



ユーツブルグ(1780~1862)
フレデリヒ
J. Fröhlich

Moderato (中位の速さ)

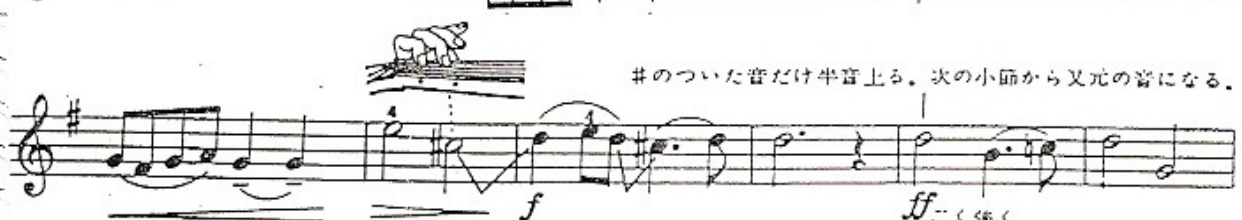


凱 旋 の 歌

ポルタート奏法 各音間がレガートにならないよう際立させて弾きます。上の奏法と同じ要領ですがスタカートははっきり区切らないで丁度弓をかえて弾くのと同じように音を出すのです。

ドイツ (1685~1759)
ヘンデル
Händel

Allegretto (やや速く)



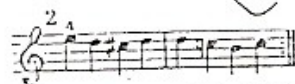
#のついた音だけ半音上げる。次の小節から又元の音になる。



(>) この記号のついた音は特に強く弾く。



ポルタートに注意して八分音符は・弓を少な目に使う。



思 い 出

WABED

二拍目が八分音

WATER

26.

 ≥ 1 の m に対して $\frac{1}{m}$ のある場合は特に注意。

4. *Staphylococcus aureus*


$$H_1 = H_2 = 0$$

127.



どい れい

九

水調短音階

短音階は長音階よりむしろかしいのでよく注意しなさい。

128



とい、れい、れ、と



鄉

愁

静かに美しく



Lento(ゆるやかに)

H. Shinozaki

129



— 42 —



Fine ☺

二度しここで終る



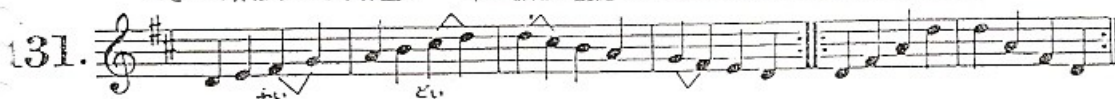
二段目の§に戻る



ニ調長音階 毎日の練習



へとハの音はすべて半音上る 下の音階は上記の七種類の奏法で毎日練習するのです。



マ イ リ ー ド

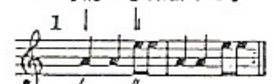


Moderato (中位の速さ)

ドイツ民謡



上・下に記した二通りの
の使い方を練習する。



小メヌエット
(フランスの古い四分の三拍子の舞曲)

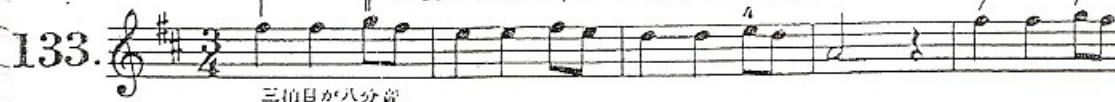


(や・はやく)
Allegretto

四分音符に全・八分音符に半弓使う。

H. Sinozaki

この曲は 108 や 129, 157 と対照して練習する。



三拍目が八分音



初めに戻る



D.C.



クレッシェンド

漸次強く。



ディミヌエンド

漸次弱く。

弓に圧力を加えてゆくと同時に速力も増してゆく。 弓の圧力をゆるめると同時に速力も減らしてゆく。

つまり弱い音は弓を小さく使い強い音は弓を大きく使うのです。



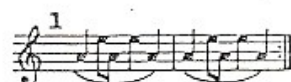
36.



37.



初めはスラーなしで練習しなさい。



第九シンフォニーより



息に小さく

(かいそくに)
Allegro

スラーの弓使いや強弱記号に注意して

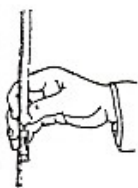
ドイツ (1770-1827)
Beethoven

38.

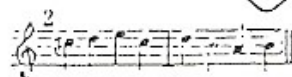
二度目 *mf*

息に小さく

二度目 *mf*



オールド ブラック ジョー



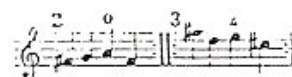
アメリカ (1826・1864)
S. C. Foster

曲は何時でも歌っている気持で演奏しなさい。



道化師

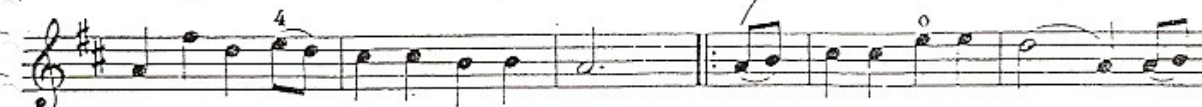
面白く軽く

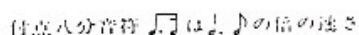


移弦の練習曲ですが、おもしろく軽くひいてください。

Scherzando (かいぎやく的に)

ハチャードより





・タタ 上の時、前面の任意音節を押し上げて一度
を止め、残りの各音節は弓の元で同方向に歯
切れよく押し上げる。

Largo

(幅広くおそく)

付点八分音符と八分音符のリズムに注意して

1841-1904

A. Uvorka

140.  A. Dvořák

元 氣 に 進 め

付産産特とスタカートに注意して出切れよく元気に弾く

March

U.S. 7111

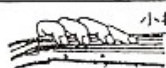
141. 

A handwritten musical score on ten staves. The first staff contains a treble clef, a key signature of two sharps (F# and C#), and a common time signature (C). The melody begins with a quarter rest followed by a series of eighth notes: D4, E4, F#4, G4, A4, B4, C5, B4, A4, G4, F#4, E4, D4. There are some annotations above the staff, including a vertical line and a small 'x' mark.

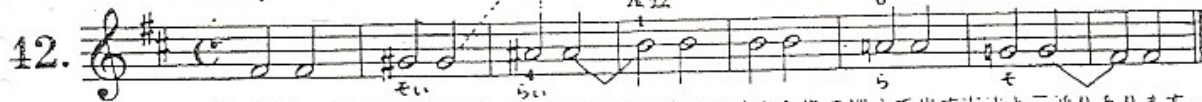
Handwritten musical notation for the first staff of the song 'The Rose Tree'. The staff is in treble clef with a key signature of one sharp (F#). The melody consists of eighth and quarter notes, with some notes beamed together. There are several slurs and ties indicating phrasing. The notation is written in ink on a five-line staff.



ここで最後の73頁にあるキラキラ星変奏曲の練習をしない。



小指をのばす



(イ音#) A#の音はD弦を4指で押える場合とA弦を1指で押えて出す方法と二通りあります。



いつも楽器を持つ前に手拍子を取って譜を読む練習を忘れないように

スペイン舞曲

ゆかいに元気よく、八分音符は弓を小さく使って歯切れよく弾く。

Allegretto(やや速く)

スペイン民謡



(>)この記号のついた音は特に強く弾く。



D.C.

初めに戻って二回弾く



小指をのばす



ハ調長音階

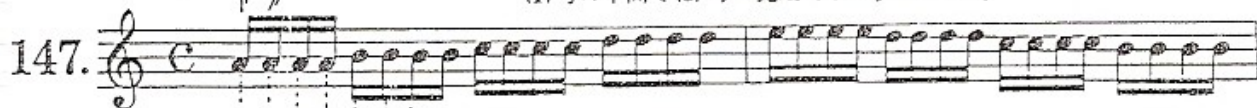


十六分音符



三通りの弓使いをする

手首を使って練習するのです。又他の弦上でも練習下さい。
(1)弓の中間で(2)弓の先端で(3)弓の根元で。



毎日の練習

八分音符に半弓、十六分音符に弓四分の一使う。

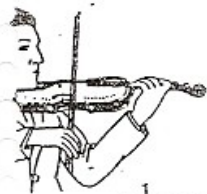


何回も繰返す



何回も繰返す



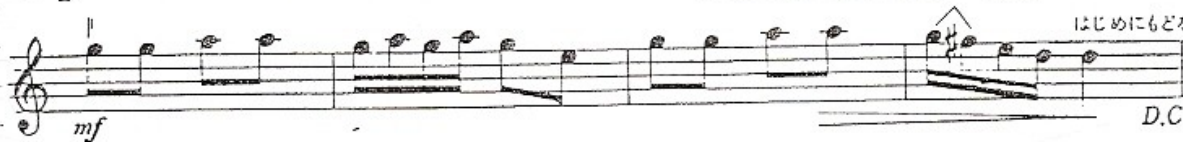


アレグレット

(ややはやく)



H. Sinozaki



付点音符練習。150番のEの要領で弾くのです。

初めは中半弓で、後に元半弓で、はすむように練習しなさい。



Giocoso (楽しげに)

か た つ む り



文部省唱歌



弓の元の方で

小指をはす



弓の中央で





へ調長音階

毎日の練習



(b) 半音下る練習

154.

bがついていた音には (x) をつけて (しx) (みx) と覚えておきなさい。

1 トレモロ 2 スカート 3 レガート 4 5 6 7

口の音はすべて半音下る。

下の音階は上記の七種類の奏法で毎日練習しなさい。これはバイオリン奏法の基本となるものです。

155.

1 さ く ら

この曲は一通り練習が出来た後、二分音符にも四分音符にも全弓を使って音が平均するように練習しなさい。

日本古謡

Lento (緩徐に)

156.

繰返しの時は反対の弓になる。

サラバンデ

(三拍子の緩徐荘重な舞曲)

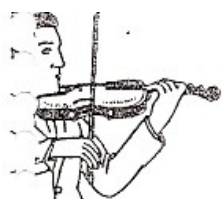
八分音符に弓四分の一 四分音符に弓二分の一 二分音符に全弓使う

Moderato (中ぐらいの速さ)

ドイツ (1824-1910)

Reineck

157.



ホルタート奏法をよく練習しなさい。
弓をかえて弾くのと同一様な音を出すのです。初めスラーをして練習して、それと同じよう
な音が出るように練習するとよいでしょう。128番参照



ボルガの舟唄



種々な強弱記号に注意



小謡の準備練習を忘れないで

Andante con moto (少く位の速さで勢力をもって)

ロシア民謡



弓を段々少なく使って次第に消えていくように。

以下ゆっくり弾く曲では二分音符にも四分音符にも全弓を使い、音が平均するように練習しなさい。



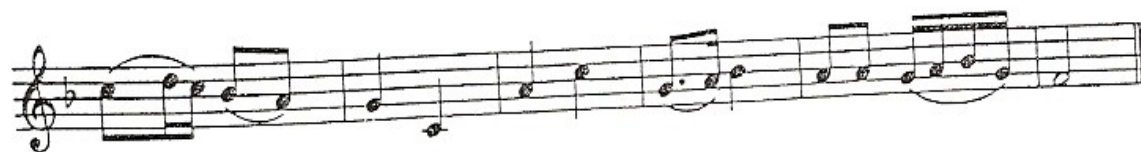
Con Sordino (弱音器を用いて)

子守唄

Andante (少く位の速さ)

静かに

オーストリア (1797~1828)
シューベルト
F. Schubert





1 2 3

Con Sordino (弱音器を用いて)

(歩くぐらいの速さ) 子 守 唄
Andante スラーのない八分音は全て弓の元を小さく使う。

ドイツ (1833~1897)
ブラームス
Brahms

161.

弓を段々大きく使う

rit.

二 調 短音階

162.

1 2 3

Con Sordino (弱音器を用いて)

古いフランスの歌

(極めて普通の速さで) Molto moderato 拍子を正しくとってスラーに注意する

ロシア (1840~1893)
チャイコフスキー
Tchaikowsky

163.

mp 上げ弓で

p

mf p

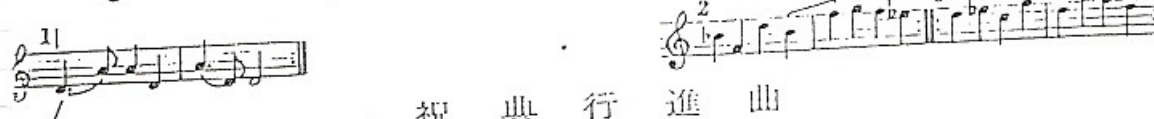
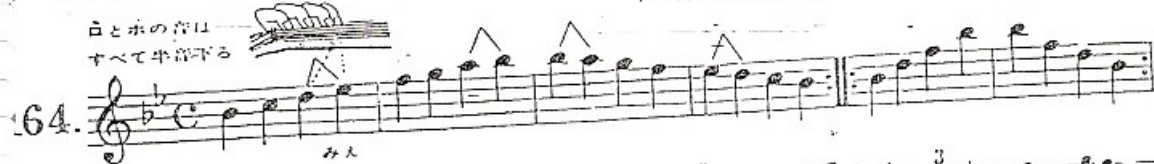
rit.

毎日の練習

変ロ調長音階



下の音階は上記の七種類の奏法で毎日練習せよ。

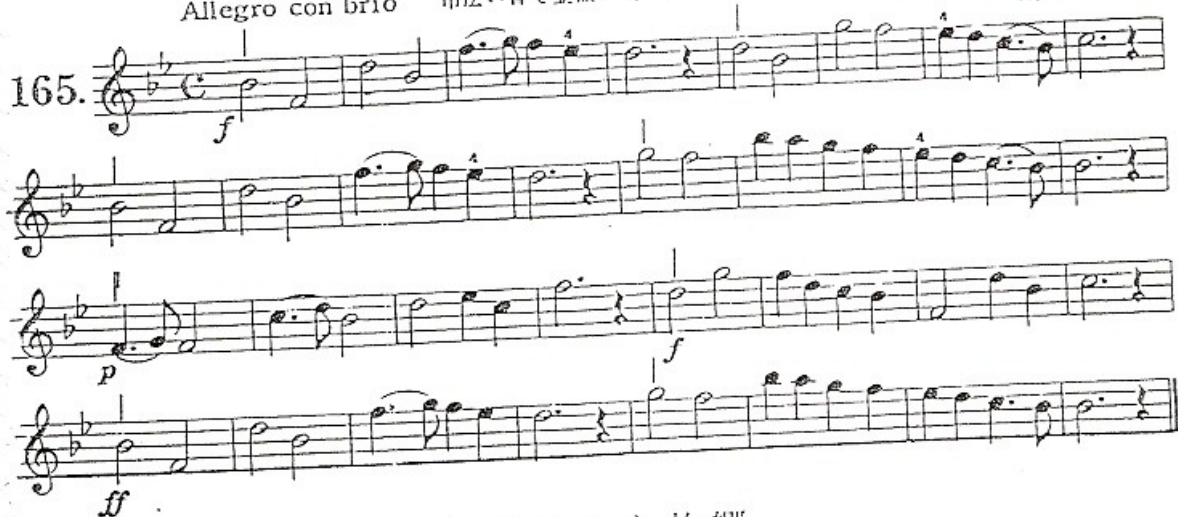


祝典行進曲

(元気にはやく)
Allegro con brio

中広い音で立派に奏く。

II. Shinozaki



なつかしき故郷

歌うように弾く

II. Shinozaki





去 り 行 く

同じ指で



遅い全弓と速い全弓に注意して三拍目の音が強くなるように弾く。

ドイツ曲



二本の弦をいっしょに押さえておく。



ト調短音階



上げ弓で



ガ ボ ッ ト

(四拍子の舞曲)



Allegro 歯切れよく弾く

H. Shinozaki



f 上げ弓からはじめる



この曲は弾き易い曲ですが145番のニ長調の曲が終わって練習するのが最もよいのです。

準備練習

の練習は同じ音を二つずつにきざんで弾きなさい。

半音の位置に注意しなさい。



きらきら星

初めは二小節ずつ区切ってよく練習しなさい。



(右手弓の練習)
バリエーション

変奏曲

各変奏曲は始めはゆっくり正確に練習しなさい。

- (1) 弓の中央で
弓の中央とその上で
以下略
- (2) 弓の中央より先で三連音の頭にも軽くアクセントをつける。
以下略
- (3) 弓の元ではずむように
以下略
- (4) 弓の中央で
以下略
- (5) 以下略

演奏する場合は最後に今一度主題を弾きなさい。

八分音符にきぎんで弾く



初めに戻る

Fine

き ら き ら 星

テーマとVar.4の伴奏

変奏曲の伴奏の右手は、バイオリンと同じものを弾いてもよい。

A

Var.1.2.3.5の伴奏

B

若 い 翼

Violin

Piano

mf

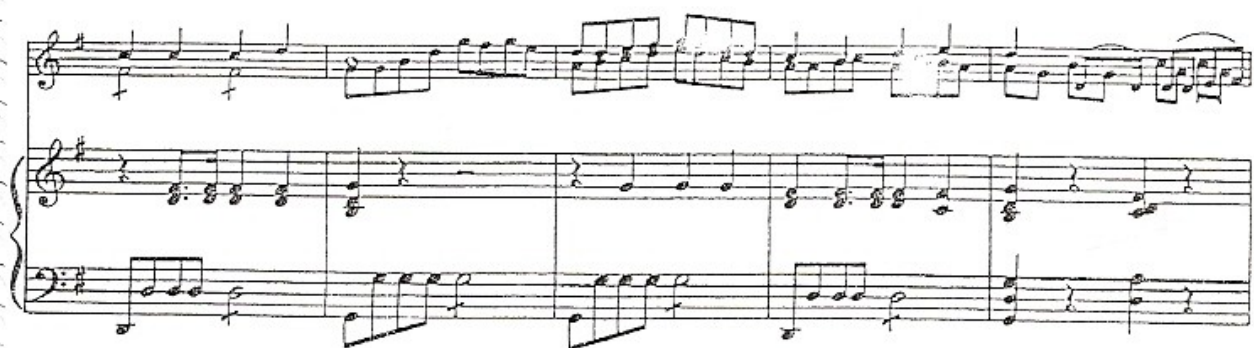
tr

ff

mf

f

f



A handwritten musical score for the song "The Rose Tree". The score is written on ten systems of staves, each system containing a vocal line and a piano accompaniment. The key signature is one sharp (F#), and the time signature is 2/4. The music is written in a clear, legible hand. The vocal line begins with the lyrics "The Rose Tree" and continues with "The Rose Tree". The piano accompaniment features a variety of rhythmic patterns, including eighth and sixteenth notes, and rests. The score concludes with a "Fine" marking and a "D.S." (Da Capo) instruction.